

JOHANNUS



digital organ

取扱説明書

この度はJOHANNUS ONEをご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

JOHANNUS ONEは、多くの機能を備えた新しいタイプのオルガンで、本格的なパイプオルガンの音を楽しむことができます。

320個のオシレーターによる無制限のノートポリフォニーと、高解像度の音(24ビット 48kHz)で、あなたは特別な雰囲気
が再現できることに夢中になることでしょう。

オルガン機能を最大限に引き出すために、このユーザーマニュアルの全ての章をよくお読みください。

このマニュアルは、後で参照できるようにお近くに保管してください。

このマニュアルで使用されている表記規則

次の記号が使用されています。

注記

重要な注意事項を示します。必ず読んでください。

メモ

設定や機能に関するメモを示します。

ヒント

操作に役立つヒントを示します。必要に応じてお読みください。



安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ずお守りください。お子様のご使用になる場合は、お子様の安全のために、保護者の方の管理の下、お子様に注意事項を守っていただきますようお願いいたします。

■ 製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。



注意：感電防止のため本体の内部を開けないでください。機器の内部にはお客様が修理／交換出来る部品はありません。点検や修理は必ずお買い求めいただいた販売店、またはお近くの弊社フィールドサポート担当までご依頼ください。



このマークは感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

■ 警告と注意、記号表示について



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。



△記号は注意(用心してほしい)を促す内容があることを告げるものです。



⊘記号は禁止(行ってはいけない)の行為であることを告げるものです。



●記号は強制(必ず実行してほしい)したり、指示する内容があることを告げるものです。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

警告



電源は必ずAC100Vを使う

100V以外禁止

電圧の異なる電源を使用しないでください。発火の恐れがあります。



電源コードを熱器具に近付けたり、無理に曲げたり重い物を載せたりして傷つけない

コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。



付属の電源コードは本機でのみ使用する

付属の電源コード以外を本機で使用しないでください。付属の電源コードを他の機器で使用しないでください。



本機を分解、修理、改造しない



本機を落としたり、強い衝撃を加えない

落とさない

怪我および破損の恐れがあります。



この機器の上に花瓶等の液体の物を置いたり、水にぬれるような使い方をしたりしない
故障・感電・発火の原因になります。



水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない
感電の原因になります。



異常が起こった場合、故障した場合は即座に電源スイッチを切り、コンセントからプラグを抜く



異物を入れない

本機の内部に異物を入れないようにする
水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。



照明用のロウソクなどの裸の火を機器の上に置かない



使用禁止

本機を次のような所では使用しない

- ・窓際など直射日光の当たる場所
 - ・暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
 - ・戸外など極端に温度の低い場所
 - ・極端に湿度の高い場所
 - ・砂やホコリの多い場所
 - ・振動の多い場所
 - ・本体の放熱を妨げる様な周囲が囲まれた場所
- 故障の原因になります。

⚠ 注意



電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。



プラグを抜く

落雷の恐れのある時や長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

感電・火災及び故障の原因になる恐れがあります。



電源を切る

コード類を接続するときは、各機器の電源を切つて行う

本機や接続機器の故障の原因になります。



指をはさまれないよう注意

鍵盤蓋で手や指をはさまないように注意する

鍵盤蓋はゆっくり取り扱ってください。勢いよく動かすと手や指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。



ぶつからない

本機のカド部でけがをしないよう注意する
頭等をぶつくと、けがの原因になります。



手や足を
入れない

鍵盤蓋やペダルの下等、本機の隙間に手や足を入れない

はさんだり擦れる恐れがあり、けがの原因になります。



持ち運びは2人で行う



電源プラグは直ぐに抜くことが出来る状態にしておく

この機器は電源スイッチを切った状態でも主電源から完全に遮断されているわけではありません。完全に遮断するためには、電源プラグを抜いてください。プラグは直ぐに抜くことが出来る状態にしておいてください。



お子様の行動に十分注意してください

お子様が使用する場合や周囲にお子様のいる場所での使用においては、大人の監視のもと十分注意し使用してください。



上に乗らない

本機の上に乗ったり、重い物を乗せたりしない

変形したり、倒れる恐れがあり、故障やけがの原因になります。



使用しない

イスは次のように使用しない

- ・イスを不安定な場所に置かない
- ・イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない
- ・イスには2人以上で座らない
- ・イスに座ったまま高さ調節をしない(調節機能付きの場合)
- ・ネジの緩んだイスに座らない

イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。



不安定な場所に置かない

怪我や破損の恐れがあります。



タコ足配線禁止



ヘッドホンは大音量で長時間使用しない

聴力低下の原因になる恐れがあります。



ディスプレイの表面に爪や鋭利なもの、硬いものなどを強く押し付けない

傷の発生や破損の原因となります。



強く押す、たたくなど故意に強い衝撃をディスプレイに与えない

傷の発生や破損の原因となることがあります。

■ お手入れについて

本体 乾いた柔らかい布で拭いてください。

ベンジンやシンナーで本機を拭かない

色落ちや、変形の原因になります。清掃するときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。

* お手入れの際は、電源コードを抜くこと。

■ 保証書について

本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管ください。

■ 銘板について

器種名、製造番号等の情報は、製品下面の銘板に記載されています。

■ 修理について

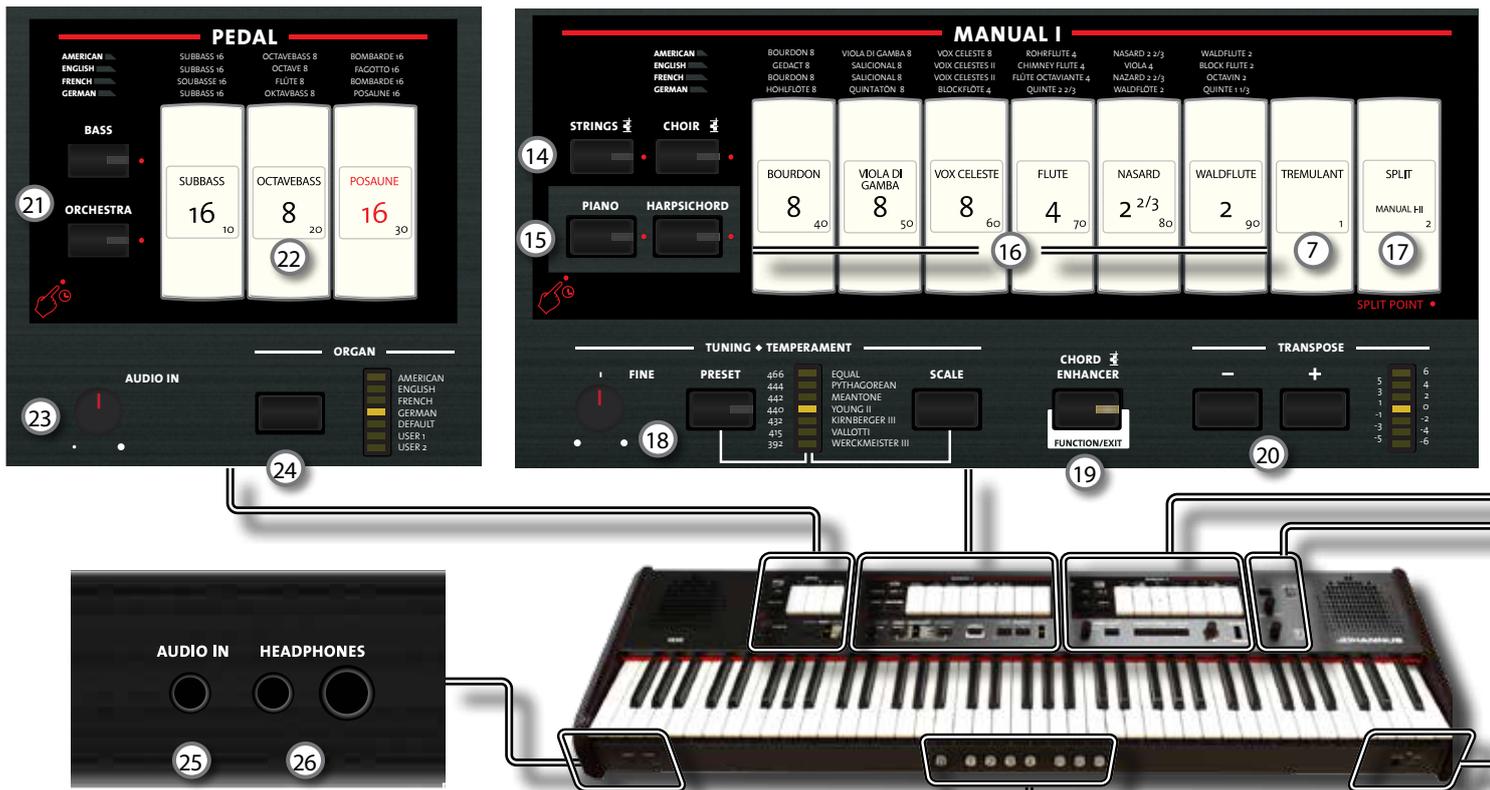
万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡ください。弊社連絡先は取扱説明書の裏表紙に記載してあります。

目次

パネル説明.....	6
接続クイックガイド.....	9
クイックガイド.....	10
演奏を始める前に.....	12
ACアダプターの接続.....	12
ペダルの接続.....	12
ヘッドフォンで聴く.....	12
外部オーディオアンプの接続.....	13
デジタルプレーヤー機器の接続.....	13
本機をコンピューターに接続する.....	13
本機をMIDI機器に接続する.....	14
USBメモリー(市販品)を接続する.....	14
USBメモリーを安全に取り外す.....	14
譜面台の取付け.....	15
USB LEDランプの取付け.....	15
アース端子.....	15
電源をオンにする.....	15
電源をオフにする.....	15
デモ機能.....	16
オルガン音色.....	17
様々なオルガン様式の選択.....	17
MANUAL Iのオルガン音色を選択する.....	17
MANUAL IIのオルガン音色を追加する.....	17
鍵盤を分割(スプリット)してMANUAL I・IIパートを演奏する.....	18
PEDALパートを使う.....	18
ペダル鍵盤でPEDALパートを演奏する.....	18
オーケストラ音色を使用する.....	19
MANUAL IIパートでオーケストラ音色を演奏する.....	19
MANUAL Iパートでオーケストラ音色を演奏する.....	19
PEDALパートでオーケストラ音色を演奏する.....	19
更にオーケストラ音色を選択する方法(バリエーション).....	19
オーケストラ音色リスト.....	20
ピアノとハーブシコード音色で演奏する.....	21
MANUAL Iパートでピアノとハーブシコードを演奏する.....	21
MANUAL IIパートでピアノやハーブシコードを演奏する.....	21
更にピアノとハーブシコード音色を選択する方法(バリエーション).....	21
サウンドにバリエーションを加える.....	22
リバーブを加える.....	22
リバーブ効果の量を調整する.....	22
別のリバーブタイプの選択.....	22
音の明るさを調整する(プリリアンス).....	22
トレミュラント効果を加える.....	22
トレミュラントタイプの選択.....	23
トレミュラント効果をティルト・タブへ割り当てる.....	23
便利な機能.....	24
鍵盤のスプリットポイントを変更する.....	24
鍵盤のピッチをトランスポートする.....	24
チューニングと音律.....	24
他の楽器にピッチを合わせる(チューニング).....	24
チューニングプリセットを使う.....	24
異なる音律を使う.....	25
各オルガン・レジスターの音量を調整する方法.....	25
各セクションの音量を調整する方法.....	26
オーケストラセクションのチューニングをオクターブ単位で変更する.....	26
サウンドを改善する(コードエンハンサー).....	27
クレッシェンドの設定を変更する.....	27
工場出荷時の設定の復元(ファクトリー・リセット).....	28

メモリーピストンの操作.....	29
設定をメモリーに保存する.....	29
設定を呼び出す.....	29
キャンセル機能.....	29
レジストレーションセットをUSBメモリーにエクスポートする.....	29
レジストレーションセットをUSBメモリーからインポートする.....	30
ソングプレーヤーで練習する.....	31
曲を再生する前に.....	31
オーディオファイルの命名規則.....	31
オーディオファイルをUSBメモリーにコピーする.....	31
曲の選択と再生.....	31
最後に録音した曲を選ぶ.....	32
曲の音量調整.....	32
演奏を録音する.....	33
音楽をオーディオデータ(WAVE)として録音する.....	33
既存のオーディオソングに演奏を録音する方法(オーバーダブ).....	33
MIDI機器との接続.....	34
MIDIデータの送受信.....	34
MIDI経由でメモリーを呼び出す.....	34
オーディオバックトラックで演奏する.....	35
モバイル機器の接続.....	35
X MUREアプリケーションで演奏する.....	35
高度な機能.....	36
一般的な手順.....	36
メモリー機能をインポートする.....	36
メモリー機能をエクスポートする.....	36
エクスプレッションペダルの設定.....	37
ダンパーペダルの設定.....	37
スピーカーの設定.....	37
オート・オフ設定.....	37
ローカル・オン/オフ設定.....	37
ファクトリー・リセット.....	38
MIDIペダル鍵盤.....	38
オルガンサウンドセットをインポートする(USER 1, 2).....	38
オルガンサウンドセットを削除する(USER 1, 2).....	38
USBの解除.....	38
鍵盤タッチレスポンス.....	39
クレッシェンドペダル.....	39
クレッシェンド設定モード.....	39
クレッシェンド設定をインポートする.....	39
クレッシェンド設定をエクスポートする.....	39
トラブルシューティング.....	40
仕様.....	41

1 パネル説明



1 電源

電源をオン/オフします(15ページ)。

工場出荷時の設定では、本機の演奏を停止、または最後に操作してから120分後に本機の電源が自動的にオフになります。

本機の電源が自動的にオフになっている場合は、**[P]**スイッチを押して再び本機をオンにすることができます。自動的に電源がオフにならないようにするには、「オート・オフ」設定を「オフ」にします(39ページ)。

注記

誤動作を避けるために、機器の電源が入っている間はACアダプターを取り外さないでください。

2 POWER PORT

このコネクタに付属のUSB LEDランプを接続します。15ページを参照してください。

警告

この電源ポートに他のデバイスを接続しないでください。過度の電流消費は機器を損傷する可能性があります。

3 BALANCE

このノブを使って、MANUAL I / PEDALとMANUAL IIの間の音量バランスを調整します。

4 VOLUME

本機の全体音量を設定するには、このノブを使用します。

5 FLUTE, VIOLIN, OBOE, TRUMPET

これらのボタンで、MANUAL II部分のオーケストラ音色を選択することができます。これらの音色の1つをオルガンセクションに追加することができます。19ページを参照してください。

6 MANUAL II ティルト・タブ

これらのティルト・タブでは、オルガンの音色を選択できます。複数のオルガン音色を同時に使用することができます。

7 TREMULANT ティルト・タブ

選択されたオルガン音色にトレミュラント効果を適用します。

8 REVERB セクション

このセクションでは、リバーブ(残響)のDEPTH(深さ)とTYPE(種類)を調整します。



9 (録音)

このボタンは、曲のオーディオ録音を開始するために使用します(33ページ参照)。

10

このボタンを押すと、曲の先頭に戻ります。

11

再生を開始するには、このボタンを押します。もう一度押すと、演奏が停止します(33ページ参照)。

12 SONG

このボタンを押すと、ソングモードでUSBメモリーを使って曲を再生することができます(31ページ参照)。

デモソングを聴くには、このボタンと**[▶/||]**ボタンを同時に押してください。

13 TONE/LEVEL ノブ

このノブを使って、以下の調整ができます：

- ・選択された音色の高音域(22ページ参照)。
- ・オーケストラセクションの音量(26ページ参照)。
- ・ピアノ/ハーブシコードセクションの音量(26ページ参照)。
- ・各オルガン・レジスターの音量(25ページ参照)。

(CRESCENDO) LEDメーターは、一時的に設定された値を表示します

14 STRINGS, CHOIR

これらのボタンを使ってMANUAL II部分のオーケストラ(ストリングス、クワイア)音色を選択できます。これらの音色の1つをオルガンセクションに追加することができます(23ページ参照)。

15 PIANO, HARPSICHORD

これらのボタンを使って、MANUAL II部分のピアノ音とハーブシコード音を選択できます(21ページ参照)。

メモ

ピアノセクション(PIANOまたはHARPSICHORD)の音色を選択すると、オルガンセクションはキャンセルされます。



16 MANUAL I ティルト・タブ

これらのティルト・タブでは、オルガン音色を選択できます。複数のオルガン音色を同時に使用することができます。

17 SPLIT/MANUAL I/II

このティルト・タブでは、次のことが可能です。
 ・鍵盤を分割し、左手パート (MANUAL I) と右手パート (MANUAL II) とで異なる音色を鳴らす (ティルト・タブが点灯)。18ページを参照してください。
 ・MANUAL II (右手) の音を MANUAL I (左手) に結合すると、鍵盤全体で両方を弾くことができます (ティルト・タブは消灯)。17ページを参照してください。
 ・MANUAL II と MANUAL I のスプリットポイントを変更する。24ページを参照してください。
 電源をオンにすると、キーボードは結合モードになります (スプリットオフ)。

18 TUNING ◆ TEMPERAMENT

このセクションでは、ご希望の基準ピッチチューニングを [PRESET] ボタンで選択し、必要に応じて [FINE] ノブでオルガンの基準ピッチを他の楽器に合わせます。

[SCALE] ボタンを使用して、希望の音律を選びます。

19 CHORD ENHANCER

このボタンはコードエンハンサー機能を有効にします。この機能は、演奏されたコード (和音) に音を追加してサウンドを改善します。27ページを参照してください。

注記

エンハンサー機能は、次の音色にのみ有効です
 スtrings とクワイアー。

20 TRANSPOSE

このボタンは、トランスポーズ (移調) 機能を呼び出します。トランスポーズ機能では、鍵盤を弾く位置を変えずに半音単位でピッチをシフトさせることができます。LEDメーターはトランスポーズ値を表示します (24ページ参照)。

21 BASS, ORCHESTRA

これらのボタンを使用して、PEDAL部分のオーケストラ音色を選択できます。これらの音色の1つをオルガンセクションに追加することができます (19ページ参照)。

メモ

このグループでは、一度に1つのオーケストラ音色しか選択できません。

22 PEDAL ティルト・タブ

これらのティルト・タブでは、オルガン音色を選択できます。複数のオルガン音色を同時に使用することができます。

23 AUDIO IN ノブ

このノブを使って、AUDIO IN端子に接続されている音源のレベルを設定します。

24 ORGAN (オルガン様式)

オルガン様式を切り替えることで、オルガン全体の音色の特徴や印象を変えることができます。例えば、ドイツ風オルガンからイギリス風オルガンに切り替えることができます (17ページ参照)。

25 AUDIO IN 端子

このミニジャックは、外部信号ソース (CD / MP3プレーヤーなど) のオーディオ出力を接続することができます。

26 HEADPHONES 端子

ここではオプションのヘッドフォンを1つまたは2つ接続できます。

ヘッドフォンを接続すると内蔵スピーカーの音が消えます (12ページ参照)。

27 MEMORY ピストン

これらの各々のピストンには、オルガン全体の音色の組み合わせを記憶することができます。3つのメモリーバンク (M1、M2、M3) があります。

[0]ピストン (キャンセル) はオルガンを全てのティルト・タブとオーケストラ音色がキャンセルされた状態 (音が選ばれていない状態) に戻します (29ページ参照)。

28 USB Computer ポート

USBケーブルを使用して、このコネクタから本機をコンピューターに接続します (13ページ参照)。

29 USB Memory ポート

市販のUSBメモリーをここに接続します。

注記

* デバイスのコネクタが適切で、向きが正しいことを確認して、USBメモリーを慎重に挿入します。

* JOHANNUSIは、アクティブカパシッパにかかわらず、USBハブの使用を推奨していません。1つのUSBメモリーのみをこのポートに接続してください。

背面部



30 アース端子

セットアップの状況によっては、本機に触れるとビリッと感じる場合があります。アース端子と外部アースを接続すると、この感覚を無くすことができます(詳細は15ページ参照)。

31 DC IN 端子

付属のACアダプターをここに接続してください(12ページ参照)。

注記

本機に付属のACアダプターのみを使用してください。また、設置場所の電源電圧がACアダプター本体で指定された入力電圧と一致することを確認してください。他のACアダプターは、極性が異なるか、異なる電圧用に設計されている可能性があり、使用すると損傷、誤動作、感電の恐れがあります。

32 AUDIO OUTPUT R, L/MONO 端子

この端子を使用すると、外部アンプスピーカー、外部ミキサー、外部サブウーファーなどを接続できます。

33 CRESCENDO ペダル

この端子を使用して、クレッシェンドペダル(エクスプレッションペダル)を接続します。クレッシェンドペダルは、踏み込んでいくと徐々にティルト・タブを作動させ、戻していくとティルト・タブの音色を徐々に減らしていきます(12ページ参照)。

この端子は可変ダンパーペダルにも使えます。クレッシェンドペダル(41ページ)を参照してください。

34 DAMPER ペダル

このペダルを使用して音を持続させます(12ページ参照)。

35 EXPRESSION ペダル

この端子を使ってエクスプレッションペダルを接続します。

36 MIDI THRU/OUT/IN 端子

これらの端子を使用すると、本機を外部MIDI機器に接続してMIDIメッセージを送信(OUT)および受信(IN)することができます(14ページ参照)。

MIDI IN端子に市販のペダル鍵盤ユニットを接続すると、PEDALパートを足で弾けるようになります。ここにペダル鍵盤ユニットを接続すると、PEDALパートはモノフォニックではなくポリフォニックになります。

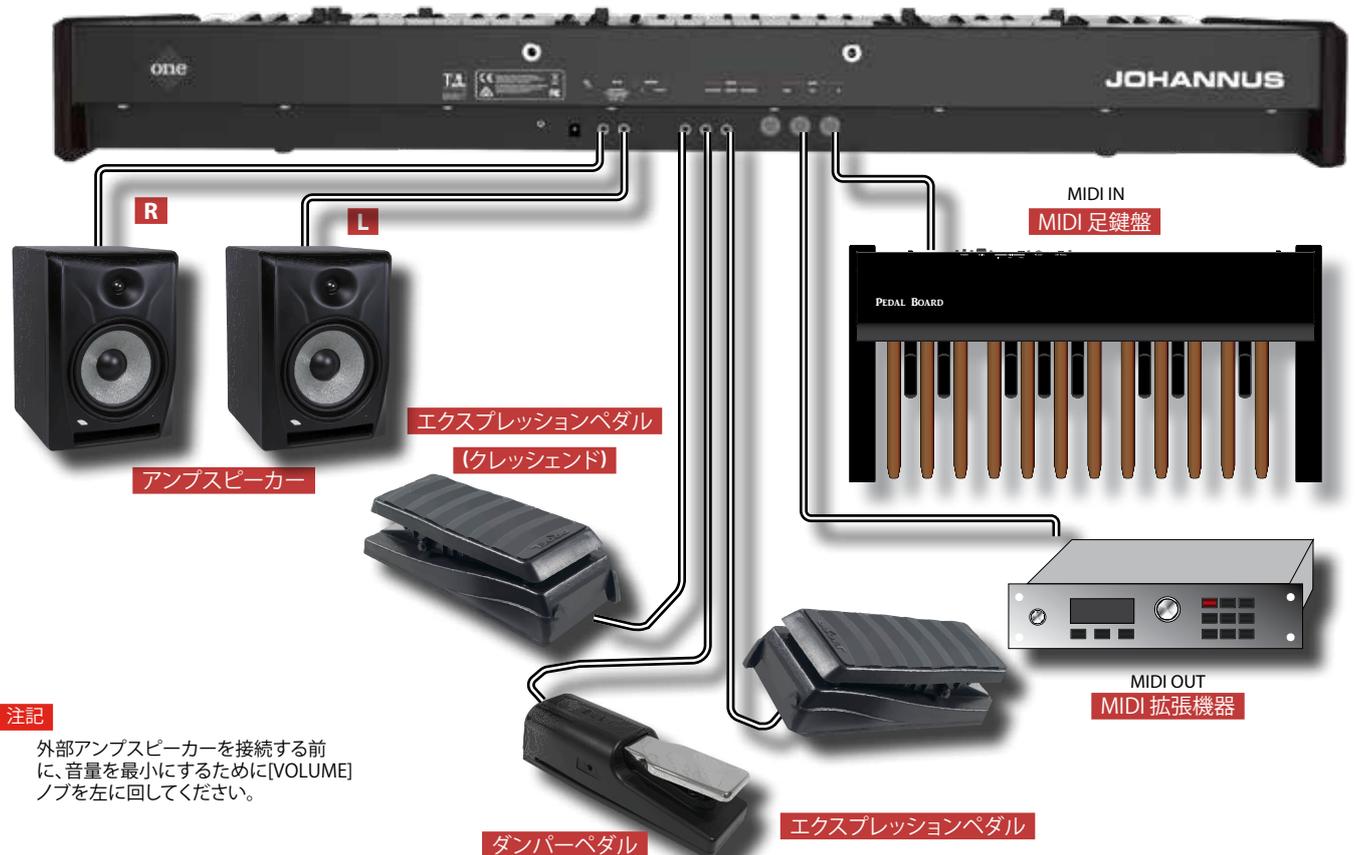
2 接続クイックガイド

周辺機器

注記

外部機器をAUDIO IN端子に接続する前に、[VOLUME]ノブを左に回して音量を最小にしてください。

LEDランプ



注記

外部アンプスピーカーを接続する前に、音量を最小にするために[VOLUME]ノブを左に回してください。

3 クイックガイド

オルガン音色

オルガン音色

オーケストラ音色

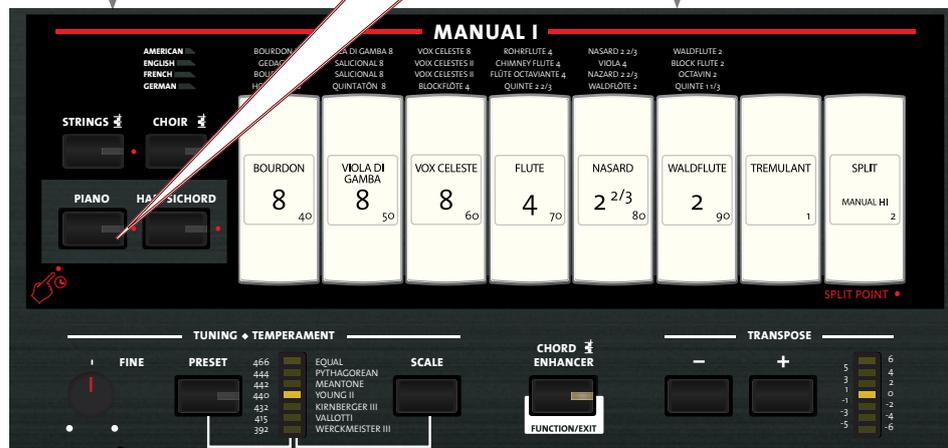
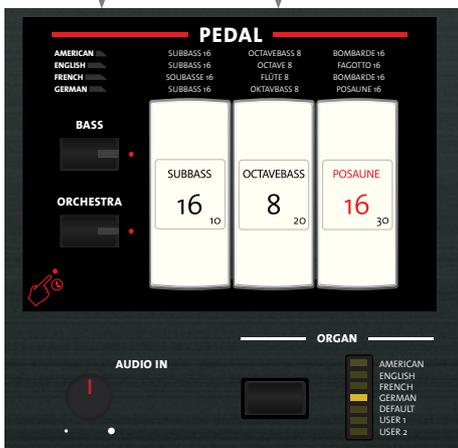
オーケストラ音色

ピアノ音色の選択

MANUAL I パート

これらのボタンを使って、ピアノ音色を選択します。ピアノセクションの音色はオルガン音色、オーケストラ音色と同時に使用することはできません。

1. ピアノセクションのいずれかのボタンを押して、音色を呼び出します。インジケーターが点灯し、音色が選択されます。



AUDIO IN レベルを調整する

1. ピアノセクションのいずれかのボタンを押して、音色を呼び出します。インジケーターが点灯し、音色が選択されます。

オルガン様式を変更する

オルガン様式を切り替えることで、オルガン全体の音色の特徴や印象を変えることができます。"USER 1"と"USER 2"では、www.johannus.com サイトからダウンロード可能なサウンドセットをインポートできます。

1. 目的のオルガン様式のインジケーターが点灯するまで、ボタンを繰り返し押しします。

古典音律を選択する

392Hz、415Hz、432Hz、440Hz(初期値)、442Hz、444Hz、466Hzの7つの古典的な固定設定のいずれかを選択することにより、基準ピッチを調整することができます。他の楽器と一緒にアンサンブルで本機を演奏している場合は、必要であればピッチ([FINE]ノブ)を調節して他の楽器に合わせる必要があります。

1. 希望のピッチのインジケーターが点灯するまで、[PRESET]ボタンを繰り返し押しします。
2. 必要に応じて、[FINE]ノブを回して調整します。

音律を選択する (SCALE)

本機では、音律を簡単に変更することができます。

1. 希望の音律のインジケーターが点灯するまで、[SCALE]ボタンを繰り返し押しします。

音を改善する (CHORD ENHANCER)

この機能は、演奏されたコード(和音)に音を追加してSTRINGSとCHOIRの音を改善します。

1. STRINGSかCHOIRの音色を選びます。
2. [CHORD ENHANCER]を押して機能を有効にします。[ENHANCER]ボタンインジケーターが点灯し、コードエンハンサー機能が有効になります。
3. 鍵盤で和音を演奏します。コードエンハンサー機能は、演奏したコード(和音)に音を追加します。

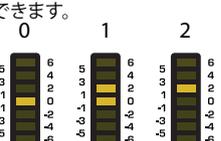
FUNCTION/EXIT

1. [FUNCTION/EXIT]を長押ししてファンクションモードに入ります。
2. ティルト・タブを押して、機能を有効または無効にします(38ページ参照)。

鍵盤のピッチを変更する (TRANSPOSE)

鍵盤を弾く位置を変えずに演奏をトランスポーズすることができます。

1. [-] [+]ボタンを使ってトランスポーズを調節します。インジケーターは移調値を表示します。



オルガン音色の選択

PEDAL, MANUAL I, MANUAL II パート

これらのティルト・タブでは、オルガン音色を選択できます。複数のオルガン音色(ティルト・タブ)を同時に選択することができます。

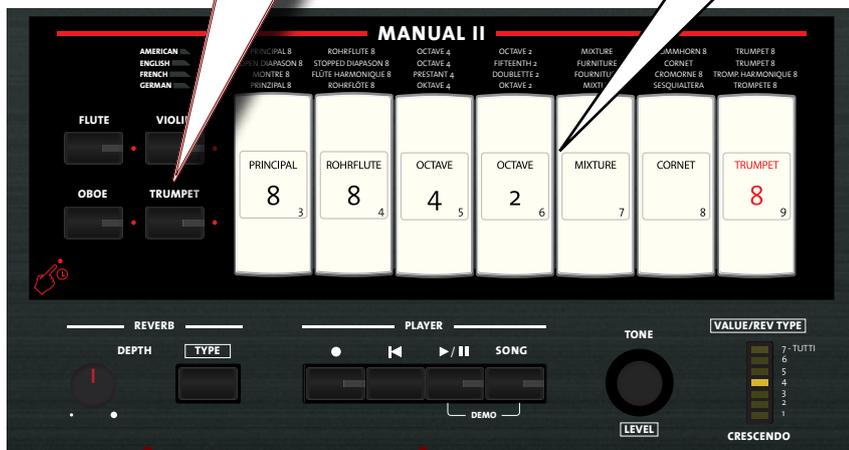
1. 「PEDAL」、「MANUAL I」、「MANUAL II」のいずれかのティルト・タブの下部を押します。
インジケーターが点灯し、音色が選択されます。
2. ティルト・タブの上部を押して音を消します。
ティルト・タブインジケーターが消え、選択した音色がキャンセルされます。

オーケストラ音色の選択

PEDAL, MANUAL I, MANUAL II パート

これらのボタンを使って、オーケストラ音色を選択することができます。これらの音の1つをオルガンセクションに追加することができます。

1. オーケストラセクションのボタンの1つを押して、音色を呼び出します。
インジケーターが点灯し、音色が選択されます。



音質(トーン)を調整する

1. [TONE]ボタンを回して、音の明るさを調整します。トーンを明るくするには右に回します。左に回すとトーンが柔らかくなります。
[VALUE/REV TYPE]インジケーターはトーンの輝きの値を表示します。

各セクションの音量を調整する

1. 調整したいセクションのボタンの1つを押し続けます。
2. [TONE / LEVEL]ノブを回して音量を調節します。
3. セクションのボタンをもう一度押すと、編集モードを終了します。

曲の録音と再生

1. [●]ボタンを押して録音を開始します。
2. 曲を演奏します。
3. [●]ボタンを押して録音を停止します。
4. [▶/||]ボタンを押して曲を再生します。
5. もう一度[▶/||]ボタンを押して、曲を一時停止します。
6. [◀]ボタンを押して曲の先頭に戻ります。

リバーブの選択

本機には7種類のリバーブが装備されています。

1. [TYPE]ボタンを押して、ルームサイズの種類を選びます。
[VALUE/REV TYPE]インジケーターは部屋のタイプを表示します。
2. [DEPTH]ノブを回して、残響の量を調整します。

デモ曲

1. [▶/||]ボタンと[SONG]ボタンを同時に押します。

メモリーを使う

本機には、[M1/2/3]と[1]~[4]メモリーピストンを介してアクセスできる4つのメモリーと3つのバンクがあります(合計12個のメモリー)。[0]ピストンを押すと、現在選択されているメモリーの設定が解除され、全てのオルガン音色とオーケストラ音色がミュートされます。



メモリーを呼び出す

1. [M1/2/3]ピストンを押してメモリーバンクを選びます。
丸いボタンが点灯します。
2. [1]~[4]のいずれかのピストンを押して、メモリーを呼び出します。

メモリーを保存する

1. [M1/2/3]ピストンを押して、保存したいメモリーバンクを選びます。
丸いボタンが点灯します。
2. [1]~[4]のピストン・ボタンを押し続けて、メモリーを保存します。

4 演奏を始める前に

ACアダプターの接続

1. [VOLUME]ノブを左に回して音量を最小にします。



2. 付属の電源コードをACアダプターに接続します。
ACアダプターをコンセントに差し込むと、インジケーターが点灯します。



注記

お住まいの地域によっては、付属の電源コードが上記の絵と異なる場合があります。

注記

本機に付属のACアダプターのみを使用してください。また、設置場所の電源電圧がACアダプター本体で指定された入力電圧と一致することを確認してください。他のACアダプターは、極性が異なるか、異なる電圧用に設計されている可能性があり、使用すると損傷、誤動作、感電の恐れがあります。また付属のACアダプターを他の機器に使用しないでください。

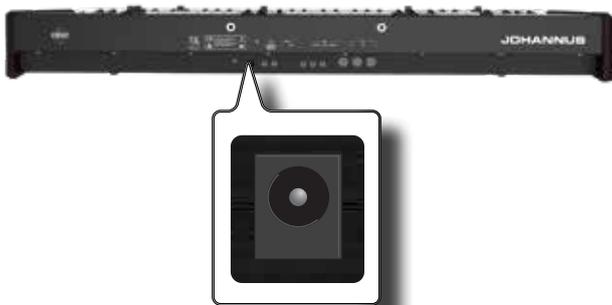
注記

長時間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜いてください。

注記

誤動作を避けるために、機器の電源が入っている間はACアダプターを取り外さないでください。

3. 本機の背面下部にあるDC INジャックにACアダプターを接続します。



ペダルの接続



1. エクスプレッションペダルをCRESCENDO端子に接続します。
クレッシェンドペダルは、踏み込んでいくと徐々にティルト・タブを作動させ、戻していくとティルト・タブの音色を徐々に減らしていきます。

メモ

この端子は可変ダンパーペダルにも使えます。ペダルをダンパーとして使うには、「クレッシェンドペダル」(41ページ)を参照してください。

2. ダンパーペダルをDAMPER端子に接続します。
このペダルは、ピアノセクションの演奏中にサスティンをコントロールするのに便利です。PEDAL、MANUAL Iのオーケストラセクションの音を持することができます。セクションは割り当て可能です。「ダンパーペダルの設定」(39ページ)を参照してください。

注記

DAMPER端子はON / OFFタイプのフットスイッチのみを受け入れます。

3. EXPRESSION端子にエクスプレッションペダルを接続します。
オルガン、オーケストラ、ピアノセクションの音量をコントロールすることができます。
EXPRESSION端子は、様々な機能を割り当てることができます。「エクスプレッションペダルの設定」(39ページ)を参照してください。

ヘッドフォンで聴く

ヘッドフォンを使って、周囲の人を邪魔することなく本機を楽しむことができます。

1. ステレオヘッドフォンを接続できます。本機には2つのヘッドフォン端子があります。2人でヘッドフォンを同時に使用できます。



2. 本機の[VOLUME]ノブを回して、ヘッドフォンの音量を調節します。

ヘッドフォン使用時の注意

- コードの内部導体の損傷を防ぐため、取り扱いには慎重を期してください。ヘッドフォンを使用する場合は、主にプラグまたはヘッドセットのいずれかを取り扱うようにしてください。
- 機器を接続したときに音量が上がっていると、ヘッドフォンが破損することがあります。ヘッドフォンを接続する前に音量を最小にしてください。
- 過度の入力は聴力にダメージを与えるだけでなく、ヘッドフォンにも負担をかけることがあります。適切な音量で音楽を楽しんでください。

外部オーディオアンプの接続

OUTPUTのR、L/MONO端子に外部アンプ、ミキシングコンソールなどを接続することができます。

注記

外部アンプで1つのチャンネルのみを使用する場合は、L/MONO端子から外部アンプの入力に接続します。最適な音質を得るには、ステレオで接続することをおすすめします。

1. [VOLUME]ノブを左に回すと音量が小さくなります。
2. 本機のOUTPUT端子を外部オーディオ機器の入力に接続します。

背面



デジタルプレーヤー機器の接続

INPUT端子をオーディオ再生機器に接続することができます。再生音は本機の内蔵スピーカーで再生されます。

1. [VOLUME]ノブを左に回すと音量が小さくなります。
2. 本機のAUDIO IN端子を外部信号源の出力に接続します。



3. AUDIO INノブを使って、本機のAUDIO IN端子から受信した信号の出力レベルを調整します。

本機をコンピューターに接続する

本機のフロントパネルにあるCOMPUTERポートとコンピューターのUSBポートをUSBケーブル(市販品)で接続すると、本機とシーケンサーソフトウェア間でMIDIデータを転送することができます。

注記

本機はGM/GS規格に対応していません。

本機とコンピューターを接続するには何が必要ですか？

- USBケーブル(タイプA・オス - タイプB・オス:市販品)

1. 次の図のように、標準のUSBケーブル(A→Bタイプのコネクター、市販品)を使用して本機をコンピューターに接続します。



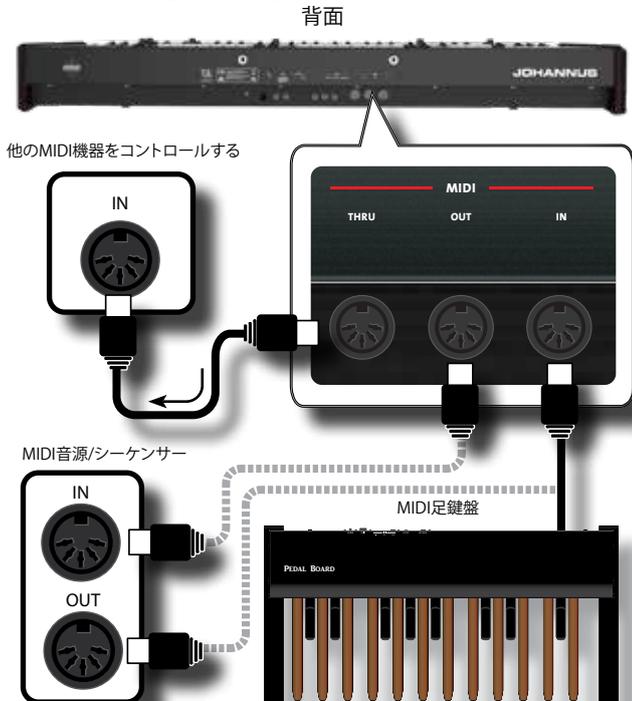
注記

- ・誤動作や外付けスピーカーの損傷を防ぐため、接続する前に必ず音量を下げ、全ての機器の電源を切ってください。
- ・USB経由で送受信できるMIDIデータのみです。音声データは送受信できません。
- ・コンピューターのMIDIアプリケーションを起動する前に、本機の電源を入れます。MIDIアプリケーションが起動している間は、本機の電源をオン/オフしないでください。

本機をMIDI機器に接続する

MIDIは異なる種類やメーカーの機器間で音楽データを送受信できる国際規格です。MIDIを使用すると、あなたの楽器をMIDIサウンドモジュールとして他の機器に接続できます。

MIDI接続の例を以下に示します。



1. オプションの標準MIDIケーブル（コード：CHL400LU15）を使用して、本機のMIDI OUT端子を外部MIDI機器のMIDI IN端子に接続します。
2. 必要に応じて、オプションの標準MIDIケーブル（コード：CHL400LU15）を使用して、外部MIDI機器のMIDI OUT端子を本機のMIDI IN端子に接続します。
3. 本機のMIDI IN端子で受信したMIDIメッセージを別の機器に再送信する必要がある場合は、追加MIDIケーブル（コー

ド：CHL400LU15）を使ってTHRU端子を関連機器のMIDI IN端子に接続します。
外部機器のMIDI設定については、その外部機器の取扱説明書をご覧ください。

USBメモリー（市販品）を接続する

1. 図のようにUSBメモリーをメモリーポートに接続します。

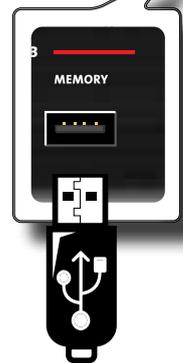


注記

デバイスのコネクタが適切で、向きが正しいことを確認して、USBメモリーを慎重に挿入してください。

注記

本機は全てのUSBメモリー（FAT 32フォーマット）をサポートしています。
市場には非常に多くのUSBメモリーが出回っていて、全てのタイプのメモリーをチェックすることはほとんど不可能であるため、メモリーがお客様の装置と互換性がない場合があります。



USBメモリーを安全に取り外す

注記

USBメモリーを物理的に抜き取る前に、必ずUSBメモリーを解除してください。USBメモリーを取り外す前に、「USB REMOVE」機能を使用してください。

1. [FUNCTION/EXIT]ボタンを長押しします。



[FUNCTION/EXIT]ボタンが点滅し、ファンクションモードになっていることを示します。他の全てのインジケータは消灯します。

2. 「30」ティルト・タブの下部を押して、USBメモリーを安全に取り外します。

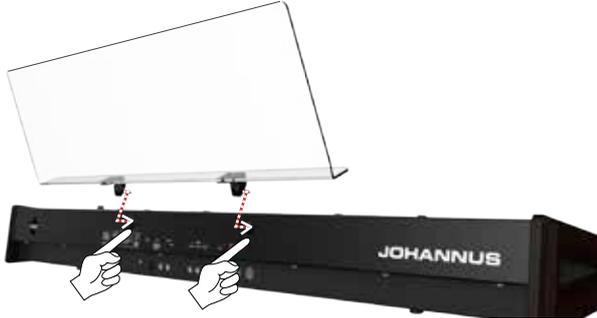


「30」ティルト・タブのインジケータが点滅を開始し、数秒後に装置はファンクションモードを抜けます。

これでUSBメモリーを安全に取り外すことができます。

譜面台の取付け

付属の譜面台を下図のように取り付けます。



USB LEDランプの取り付け

本機には5ボルト電源ポートが装備されています。楽譜を読むのに照明が十分でないときは、フレキシブルLEDランプを接続することができます。



1. フレキシブルLEDランプをPOWER PORTに接続します。

注記

デバイスのコネクタが適切で、向きが正しいことを確認して、LEDランプを慎重に挿入してください。

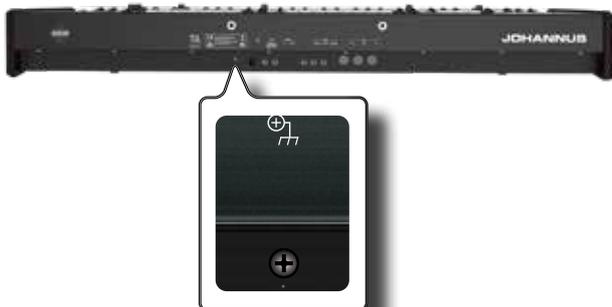
警告

この電源ポートに他のデバイスを接続しないでください。過度の電流消費は、機器を損傷する可能性があります。

アース端子

セットアップの状況によっては、本機に触れるとビリッと感がある場合があります。アース端子と外部アースを接続すると、この感覚を無くすことができます。

背面



1. ネジ式のアース端子を使用して、外部アースに接続するか、システムのミキサー、プリアンプ、またはその他の機器のシャーシに接続します。

電源をオンにする

全てが正しく接続されたら、以下の手順に従って電源をオンにしてください。

1. [VOLUME]ノブを左に回して音量を最小にします。

注記

本機をオン/オフする前に、必ず音量を下げてください。音量を下げてても、本機をオン/オフするときに音が聞こえることがあります。ただし、これは正常であり、故障ではありません。

2. 右側のパネルにある本機の[⏻]ボタンを押してオンにします。



電源がオンになり、ティルト・タブのインジケーターが順番に点灯します。

少し間をおいて、本機は音を出す準備が整います。

3. [VOLUME]ノブで音量を調節します。

注記

このユニットには保護回路が装備されています。ユニットが正常に動作するには、電源投入後、少しの間隔(数秒)が必要です。

電源をオフにする

1. [VOLUME]ノブを左に回して音量を最小にします。

注記

誤動作を避けるために、機器の電源が入っている間はACアダプターを取り外さないでください。

2. 本機の[⏻]スイッチを数秒間押し続けます。

全てのインジケーターが消灯し、TRANSPOSEのLEDメーターが点滅し、数秒後に電源がオフになることを示します。

注記

電源を完全に切る必要がある場合は、まず[⏻]スイッチをオフにして、電源コードをコンセントから抜いてください。「ACアダプターの接続」(12ページ)を参照してください。

電源が入っている状態で一定時間操作しないと、本機の電源が自動的に切れます。電源を自動的にオフにしたい場合は、「オート・オフ」設定をオフにしてください。

工場出荷時の設定では、演奏を停止または最後に操作してから120分後に自動的に電源が切れます。本機が自動的にシャットダウンする直前に、インジケーターが消灯し、ティルト・タブのインジケーターが順番に点灯します。この段階で本機を使い続けたい場合は、いずれかのボタンを押します。自動的に電源が切れないようにするには、39ページの説明に従って「オート・オフ」の設定を「オフ」に変更してください。

デモ機能

本機には、最高の音色を紹介するデモが内蔵されています。

1. 全てのデモソングを再生するには、[▶/||]、[SONG]ボタンを同時に押します。



最初のティルト・タブが点滅し、全ての曲の再生が順番に自動的に開始されます。

2. 目的のデモソングが割り当てられているティルト・タブを押して、そのソングの再生を開始します。
3. [FUNCTION/EXIT]ボタンを押して、デモ機能を終了します。



注記

MIDI OUTから再生される楽曲のデータは出力されません。

注記

全ての権利は保護されています。個人的な鑑賞以外の目的での本資料の無断使用は、適用される法律に違反します。

5 オルガン音色

オルガンは、何世紀にもわたって使用されてきた古典的な楽器です。歴史的には、音楽の好みに合わせて音楽を作るために様々な音を発するいくつかの様式のオルガンが存在します。ここでは、目的のオルガン様式の選択方法とオルガン音色の演奏方法を説明します。

様々なオルガン様式の選択

本機には様々なオルガンのレジスターグループがあります：アメリカン、イングリッシュ、フレンチ、ジャーマン、そして初期設定です。さらに、楽器の音源を拡張することができる2つのメモリーロケーション (USER 1、USER 2) があります。この音色は、www.johannus.comのウェブサイトからダウンロードできます。「オルガンサウンドセットをインポートする (USER 1, 2)」(40ページ)を参照してください。

1. [ORGAN]ボタンを繰り返し押し、目的のタイプのインジケータを点灯させます。



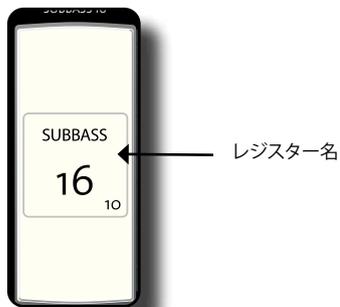
3つのオルガンパートのすべてで新しい音色が利用できるようになりました。

2. 希望するティルト・タブを押します。

各オルガン様式 (アメリカン、イングリッシュ、フレンチ、ジャーマン) の音色 (レジスター) 名は、各ティルト・タブの上のパネルに表示されています。



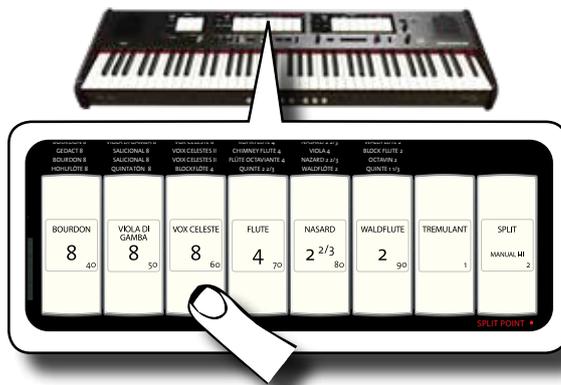
電源を入れた状態では、初期設定のオルガン様式が選ばれます。初期設定のオルガン様式のレジスター名はそれぞれのティルト・タブに表示されています。



本機では、MANUAL I、MANUAL II、PEDALの3つのオルガンパートが同時に使用できます。

MANUAL Iのオルガン音色を選択する

3. MANUAL I ティルト・タブの下部を押して、目的のオルガン音色 (オルガンストップ) を有効にします。



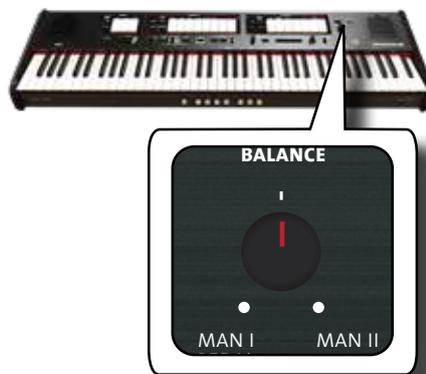
選択したティルト・タブのインジケータが点灯します。いつでも好きなだけレジスターを選ぶことができます。

4. 鍵盤を弾いてオルガン音色を楽しみます。全ての鍵盤でオルガン音色を演奏できます。いつでも好きなだけレジスターを選ぶことができます。
5. 音を止めるには、インジケータが点灯しているティルト・タブの上部を押します。

MANUAL IIのオルガン音色を追加する

本機では、MANUAL IIパートのサウンドを重ねることができます。必要に応じて、鍵盤の別の部分でMANUAL IIを演奏することができます。「鍵盤を分割 (スプリット) してMANUAL I・IIパートを演奏する」(18ページ)を参照してください。

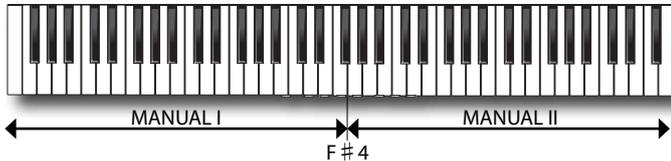
1. パワーオン時には、[SPLIT MANUAL I - II] ティルト・タブのインジケータは消灯し、チャーチオルガンで2つの鍵盤を結合している状態を再現します。[SPLIT MANUAL I - II] のインジケータが点灯する場合は、ティルト・タブの上部を押します。
2. MANUAL IIのティルト・タブの下部を押して、目的のオルガン音色 (レジスター) を有効にします。
3. 鍵盤を弾きます。MANUAL IIの音色はMANUAL Iのレジスターに追加されます。いつでも好きなだけレジスターを選ぶことができます。
4. 必要に応じて、[BALANCE]ノブを使ってMANUAL I / MANUAL IIの音量バランスを調整します。



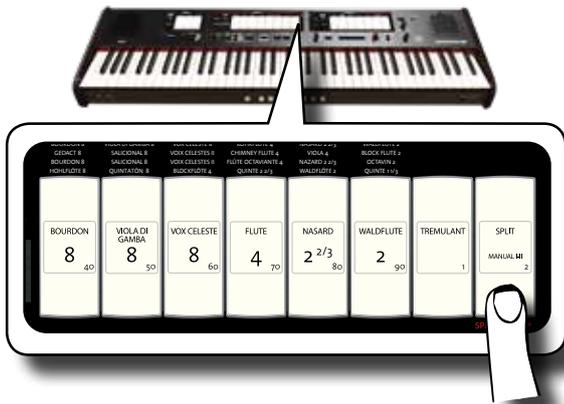
5. ティルト・タブの上部を押して音を消します。

鍵盤を分割 (スプリット) して MANUAL I・II部分を演奏する

本機では、MANUAL Iセクションを鍵盤の左半分に割り当て、MANUAL IIセクションを右半分に割り当てることができます。



1. MANUAL II部分の[SPLIT MANUAL I - II]ティルト・タブの下部を押して、鍵盤を分割します。



インジケータが点灯します。

2. MANUAL Iティルト・タブの下部を押して、目的のレジスターを有効にします。
インジケータが点灯します。いくつでも好きなだけレジスターを選ぶことができます。
3. MANUAL IIのティルト・タブの下部を押して、目的のレジスターを有効にします。
いくつでも好きなだけレジスターを選ぶことができます。
4. 鍵盤を弾きます。
キーボードの左半分がMANUAL I部分に割り当てられ、右半分がMANUAL II部分に割り当てられます。

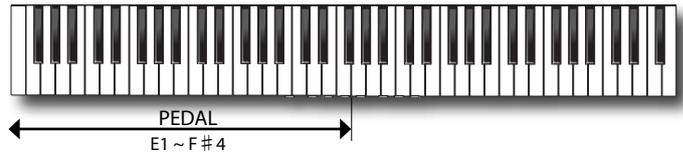
PEDALパートを使う

PEDALパートは、鍵盤または市販のMIDIペダル鍵盤で演奏することができます。鍵盤を使用すると、PEDALパートはモノフォニックで、鍵盤で演奏された最低音がPEDALパートとして追加されます。

1. PEDALのティルト・タブを使って演奏にベース音を追加します。



ベース音は、E1~F#4で演奏された音にのみ追加されます:



2. E1~F#4の範囲で鍵盤を弾きます。
ベース音は、演奏された最低音で発音します。

注記

PEDALパートの最大高音はF#4です。F#4音よりもスプリットポイントを高く設定しても、ペダル音は常にF#4まで発音します。しかし、スプリットポイントをF#4音より下に設定すると、PEDALパートは新しいスプリットポイントまでの範囲になります。

注記

本機のリアパネルのMIDI IN端子にMIDIペダル鍵盤を接続すると、PEDALパートはポリフォニックモードになり、鍵盤からは演奏できなくなります。

ペダル鍵盤でPEDALパートを演奏する

MIDIペダル鍵盤を本機のリアパネルのMIDI IN端子に接続すると、2段手鍵盤のオルガンになります。そしてPEDALパートはペダル鍵盤によって演奏されます。

メモ

MIDIペダル鍵盤を本機のMIDI IN端子に接続すると、PEDALパートはポリフォニックモードで演奏されます。

1. MIDIケーブルを使用して、MIDIペダル鍵盤を本機のMIDI IN端子に接続します。14ページを参照してください。

注記

MIDIペダル鍵盤の電源を入れるには、MIDIペダル鍵盤の取扱説明書を参照してください。

本機は、機器がMIDI IN端子に接続されていることを認識し、自動的にPEDALパートをペダル鍵盤で演奏できるようになります。

注記

ペダル鍵盤接続を本機が認識しない場合は、「MIDIペダル鍵盤」のパラメーターを確認してください(40ページ)。

2. PEDALティルト・タブの下部を押してベース音を演奏します。

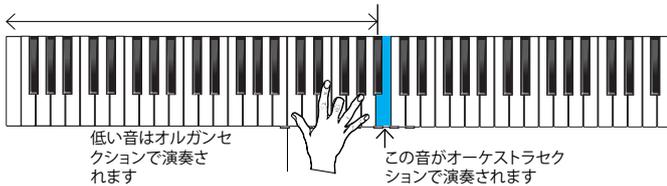
6 オーケストラ音色を使用する

本機には、オーケストラのセクションがあります。オーケストラのセクションは、単独で、またはオルガンの音とともに使用できます。オーケストラ音色はペロシティブで、音量と音色は鍵盤を押す力で変わります。

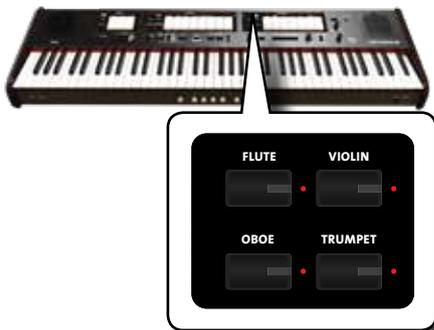
MANUAL IIパートでオーケストラ音色を演奏する

音楽の作品では、オルガンとオーケストラには幅広いレパートリーがあります。そのため、オルガンやソロオーケストラ楽器のための多くのシンフォニーを演奏できるように本機にはオーケストラ音色を搭載しました。

MANUAL IIのオーケストラ音色はメロディーラインを演奏するためモノフォニックです。鍵盤で和音を弾くと、オーケストラセクションは和音の右端の音を演奏します。適切な和音進行を演奏すると、和音の右端がメロディーラインを奏でます。



1. オーケストラ音色ボタン[FLUTE]、[VIOLIN]、[OBOE]または[TRUMPET]から1つを押して、演奏する音色を選びます。



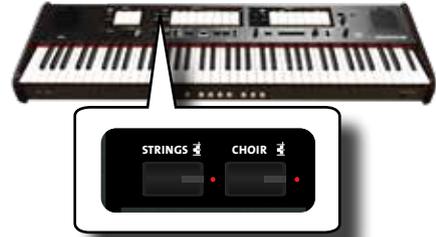
押したボタンが点灯します。別のオーケストラ音色ボタンを押すと、このセクションで前に選択したものがオフになります。この操作では、一度に1つの音色しか選択できません。

2. MANUAL IIティルト・タブの下部を押して、希望のオルガン・レジスターを有効にします。
いくつでも好きなだけレジスターを選ぶことができます。
3. 鍵盤を弾きます。
適切な和音進行を演奏すると、和音の右端がメロディーラインを奏でます。

MANUAL Iパートでオーケストラ音色を演奏する

前述のように、MANUAL IIオーケストラ音色はメロディーラインを演奏するモノフォニックです。MANUAL Iオーケストラ音色は異なり、ポリフォニックで伴奏に使用されます。

1. オーケストラ音色ボタン[STRINGS]または[CHOIR]を押して、演奏したい音色を選びます。



押したボタンが点灯します。別のオーケストラ音色ボタンを押すと、このセクションで前に選択したものがオフになります。この操作では、一度に1つの音色しか選択できません。

2. MANUAL Iティルト・タブの下部を押して、希望のオルガン・レジスターを有効にします。
いくつでも好きなだけレジスターを選ぶことができます。
3. 鍵盤を弾きます。
選択した音が演奏されます。

PEDALパートでオーケストラ音色を演奏する

前述のように、PEDALパートは、鍵盤または市販のMIDIペダル鍵盤を使用して演奏することができます。

鍵盤を使用すると、オーケストラセクションはモノフォニックで、鍵盤で演奏された最低音がオルガンパートに追加されます。

1. オーケストラ音色ボタン[BASS]または[ORCHESTRA]ボタンを押して、演奏したい音色を選びます。



押したボタンが点灯します。別のオーケストラ音色ボタンを押すと、このセクションで前に選択したものがオフになります。この操作では、一度に1つの音色しか選択できません。

2. MANUAL Iティルト・タブの下部を押して、希望のオルガン・レジスターを有効にします。
いくつでも好きなだけレジスターを選ぶことができます。
3. 鍵盤を弾きます。
選択した音が演奏されます。

更にオーケストラ音色を選択する方法(バリエーション)

本機では、各カテゴリー(フルート、バイオリン、オーボエ、トランペット、ストリングスなど)ごとに1つのボタンしかなくても、更に多くのオーケストラ音色を選択することができます。「オーケストラ音色リスト」(20ページ)を参照してください。

各カテゴリーには、最大4つの音色バリエーションが用意されています。それぞれのカテゴリーごとに好みの音色を選ぶことができます。最後に選択した音色は一時的に記憶され、対応するオーケストラ音色ボタンを押すたびに呼び出されます。

1. オーケストラ音色ボタンの1つをインジケーターが点滅するまで押し続けます。

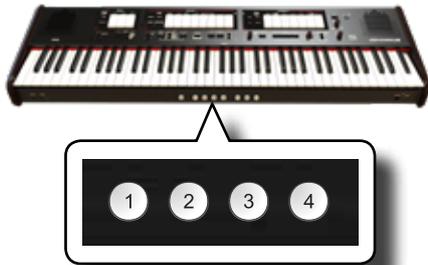
鍵盤の前のメモリーピストン[1]、[2]、[3]、[4]は、そのカテゴリーで使用可能な音色バリエーションを示しています。

これらのボタンの1つが点灯し、その音色が現在該当のオーケストラ音色ボタンに割り当てられていることを示します。



メモリーピストンインジケーターの状態	説明
点灯	現在割り当てられている音色
点滅	使用可能な音色

2. 必要に応じて、他のオーケストラ音色ボタンを押すと、そのカテゴリーの使用可能なサウンドが表示されます。
3. メモリーピストンの1つ(インジケーターが点滅しているもの)を押して、そのカテゴリーの好みの音色を割り当てます。



選択した音は一時的に記憶され、そのカテゴリーを押すたびに呼び出されます。

注記

設定を保存するには、29ページを参照してください。
保存しないで本機を電源オフにすると変更内容が失われます。

オーケストラ音色リスト

番号	音色名
MANUAL I	
STRINGS	
0001	STRINGS ENS
0002	SLOW STRINGS
0003	ORCHESTRA
0004	HARP
CHOIR	
0005	MMH CHOIR
0006	CLASSIC CHOIR
0007	SPACE VOX
0008	CELESTA
PIANO	
0009	CLASSIC GRAND
0010	DYNO STAGE
0011	BLUES ORGAN
0012	GOSPEL ORGAN
HARPSICHORD	
0013	HARPSI 8'
0014	HARPSI 4'
0015	HARPSI COUPLED
0016	LUTE
MANUAL II	
FLUTE	
0017	FLUTE
0018	PICCOLO
VIOLIN	
0019	VIOLIN
0020	VIOLA
OBOE	
0021	OBOE
0022	CLARINET
0023	BASSOON
0024	ENGLISH HORN
TRUMPET	
0025	TRUMPET
0026	BAROQUE TRUMP
0027	TROMBONE
0028	FRENCH HORN
PEDAL	
BASS	
0029	BASS SECT
0030	AC.BASS
0031	FINGERED BASS
ORCHESTRA	
0032	ORCHESTRA
0033	TUBA
0034	TUBULAR BELL

7 ピアノとハープシコード音色で演奏する

本機は、トップレベルのサウンドジェネレーターによって生成された美しいピアノとハープシコードの音を再現します。
オルガンセクションと同時にピアノとハープシコードを使用することはできません。

MANUAL Iパートでピアノとハープシコードを演奏する

1. 演奏したい音色の[PIANO]または[HARPSICHORD]ボタンを押します。

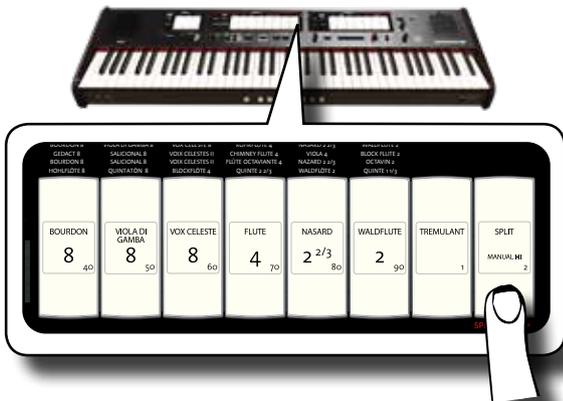


押したボタンが点灯します。オルガンのストップはオフになっています。これで、選択した音色を演奏できます。

MANUAL IIパートでピアノやハープシコードを演奏する

MANUAL IIパートで、ピアノを右手で弾くと便利ことがあります。本機ではそれが可能です。

1. 演奏したい音色の[PIANO]または[HARPSICHORD]ボタンを押します。
2. [SPLIT MANUAL I - II]ティルト・タブをインジケーターが点滅するまで押し続けます。



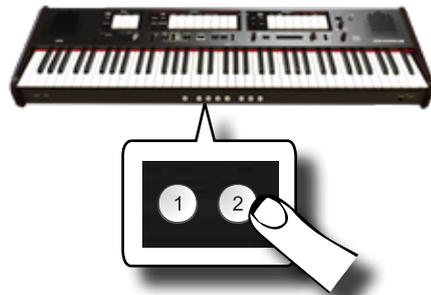
鍵盤下のメモリーピストン[1]と[2]が利用可能な設定を表示します。



ピストン	MANUAL	説明
1	I	ピアノとハープシコードのセクションはMANUAL Iパートに割り当てられています
2	II	ピアノとハープシコードのセクションはMANUAL IIパートに割り当てられています

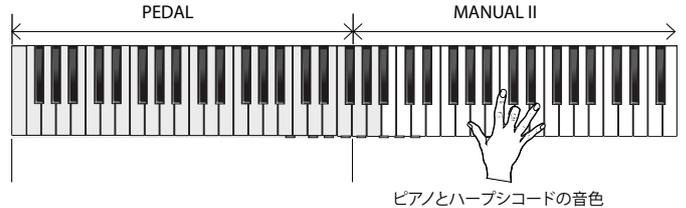
メモリーピストンのインジケーターが現在の設定(点灯)と選択可能な設定(点滅)を表示します。

3. [2]メモリーピストンを押してピアノとハープシコードのセクションをMANUAL IIパートに割り当てます。(インジケーターが点灯します。)



ピアノとハープシコードがMANUAL IIに割り当てられました。

4. [SPLIT MANUAL I - II]ティルト・タブを押して鍵盤を分割し、鍵盤の右部分でピアノまたはハープシコードを演奏します。



注記

設定を保存するには、29ページを参照してください。保存しないで本機を電源オフにすると変更内容が失われます。

更にピアノとハープシコード音色を選択する方法(バリエーション)

本機では、さらに多くのピアノ音色とハープシコード音色を選択できます。(各カテゴリーには1つのボタンしかありませんが。)

ピアノまたはハープシコードの各カテゴリーには、最大4つの音色バリエーションが用意されています。それぞれのカテゴリーごとに好みの音色を選ぶことができます。最後に選択した音色は一時的に記憶され、対応するボタンを押すたびに呼び出されます。全音色リストについては、20ページを参照してください。

音色のバリエーションを選択する手順は、オーケストラのセクションと同じです。「更にオーケストラ音色を選択する方法(バリエーション)」(19ページ)を参照してください。

注記

設定を保存するには、29ページを参照してください。保存しないで本機を電源オフにすると変更内容が失われます。

8 サウンドにバリエーションを加える

リバーブを加える

本機では、様々なデジタルリバーブエフェクトを選択することで、コンサートホールや教会などのようなリアルな音響空間を作り出し、サウンドに特別な深みや表現を加えることができます。



リバーブ効果の量を調整する

ここでリバーブの量を調整できます。

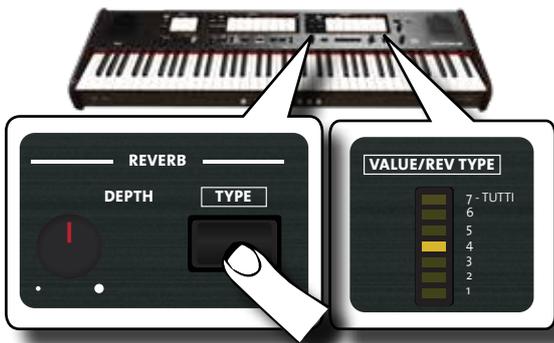
- [DEPTH]ノブを回して、リバーブ効果の量を調節します。ノブを時計回りに回すとリバーブレベルが上がります。ノブを反時計回りに回すとリバーブレベルが下がります。[VALUE/REV TYPE]インジケータには、値に関する情報が表示されます。

ノブ	値
リバーブデプス	0~127

別のリバーブタイプの選択

このパラメーターでは、必要なリバーブ効果の種類を指定できます。

- [VALUE/REV TYPE]インジケータが希望のタイプ番号に点灯するまで、[TYPE]ボタンを繰り返し押します。



使用可能なリバーブタイプは次のとおりです。

番号	リバーブタイプ
1	ルーム
2	ホール
3	中ホール
4	コンサートホール
5	大ホール
6	教会
7	アリーナ

音の明るさを調整する(ブリリアンス)

ここでは、鍵盤で演奏される音の明るさを調整できます。

- [TONE]ノブを回して、音の明るさを調整します。



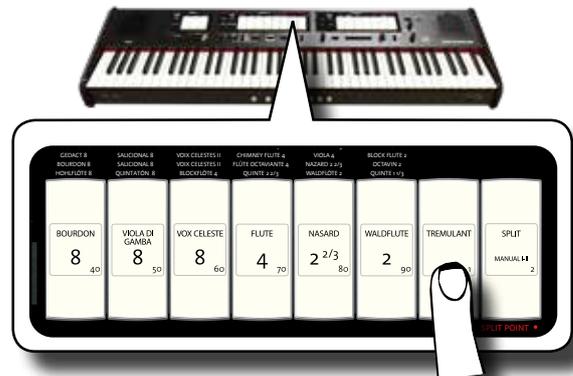
ノブを時計回りに回すと、音色がより明るくなります。ノブを反時計回りに回すと、トーンがよりソフトでメロニーになります。「VALUE/REV TYPE」インジケータが一時的に値を表示します：

値	ブリリアンス
7	明るいトーン
6	↑
5	↑
4	標準のトーン
3	↓
2	↓
1	ソフトでメロニーなトーン

トレミュラント効果を加える

トレミュラントは、パイプオルガンに設置される装置で、1つまたは複数のパートのパイプへの風の供給量を変化させます。この圧力変動により音量およびピッチが変動し、トレモロおよびビブラート効果が生じます。本機には、3つのタイプのトレミュラント効果が装備されており、各パート (PEDAL、MANUAL I、MANUAL II) の好みのティルト・タブに割り当てることができます。

- MANUAL IIパートで[TREMULANT]ティルト・タブの下部を押します。



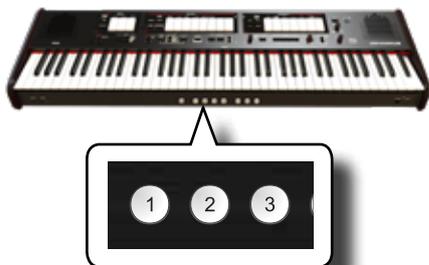
ティルト・タブが点灯し、トレミュラント効果がサウンドに適用されます。

- オフにするには [TREMULANT]ティルト・タブの上部を押します。

トレミュラントタイプの選択

本機は3種類のトレミュラント効果を備えています。

1. [TREMULANT]ティルト・タブの下部をインジケータが点滅するまで押し続けます。
2. [1]、[2]または[3]メモリーピストンを押して、好きなトレミュラント効果を選びます。



3. [TREMULANT]ティルト・タブの下部を押して、編集機能を終了します。

トレミュラント効果をティルト・タブへ割り当てる

1. [TREMULANT]ティルト・タブの下部をインジケータが点滅するまで押し続けます。
2. トレミュラント効果を割り当てるティルト・タブを選びます。MANUAL I、MANUAL II、PEDALパートでティルト・タブを選択できます。
3. [TREMULANT]ティルト・タブの下部を押して、編集機能を終了します。

注記

設定を保存するには、29ページを参照してください。保存しないで本機を電源オフにすると変更内容が失われます。

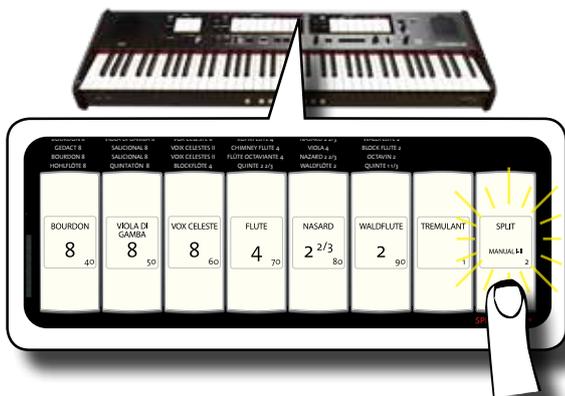
9 便利な機能

鍵盤のスプリットポイントを変更する

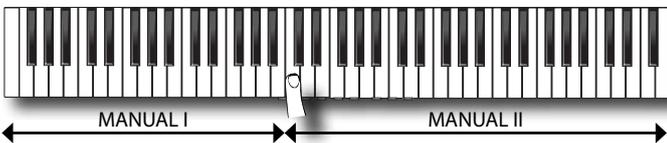
スプリットモード機能は、鍵盤を2つのパート (MANUAL I, MANUAL II) に分け、MANUAL IとMANUAL IIで演奏することができます。「鍵盤を分割 (スプリット) してMANUAL I・IIパートを演奏する」(18ページ)を参照してください。

スプリットポイントは、初期設定でF#4キーに設定されています。工場出荷時の設定を変更したい場合にスプリットポイントを変更する方法は次のとおりです。

1. [SPLIT] ティルト・タブをインジケータが点滅するまで押し続けます。



2. 分けたいところで鍵盤を押してスプリットポイントを設定します。押された鍵盤は、MANUAL IIの最初の鍵盤になります。



鍵盤のピッチをトランスポーズする

トランスポーズ設定では、本機の鍵盤のピッチを半音単位で上下させることができます。

これは、キーが異なる楽器と一緒に演奏する場合や、歌手が原曲とは異なるキーで歌う場合に特に便利です。

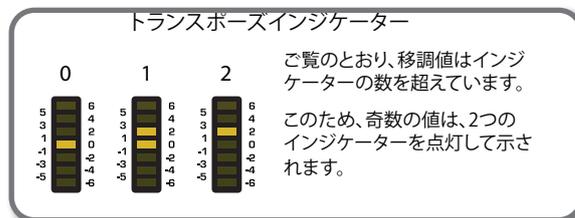
1. TRANSPOSE [-] と [+] ボタンを使って鍵盤の音程を上下に+6/-6半音ずつシフトします。



トランスポーズ設定

-6 ~ 0 ~ +6 (半音単位)

TRANSPOSE LEDメーターは移調値を示します。



2. TRANSPOSE [-] と [+] ボタンを同時に押し、トランスポーズ設定が "0" に戻ります。

注記

設定を保存するには、「メモリーピストンの操作」(29ページ)を参照してください。保存しないで本機を電源オフにすると変更内容が失われます。

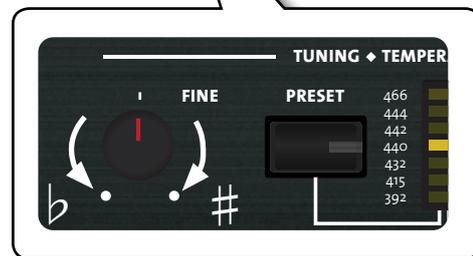
チューニングと音律

このセクションでは、楽器のピッチを変更したり、鍵盤のスケール (チューニングシステム) を標準的な平均律から古典的な曲などに適した別のチューニングに変更することができます。

他の楽器にピッチを合わせる (チューニング)

調律が困難または不可能なアコースティック楽器と一緒に演奏することがあります。以下に示すように、別の楽器の調律に合わせることは本機にとって簡単です。

1. "TUNING ◆ TEMPERAMENT" セクションの[FINE]ノブを回します。



ノブを時計回りに回すと全体的な音程が上がり、反時計回りに回すと音程が下がります。

選択したピッチを中心に±100セント (約半音) の範囲で調整できます。

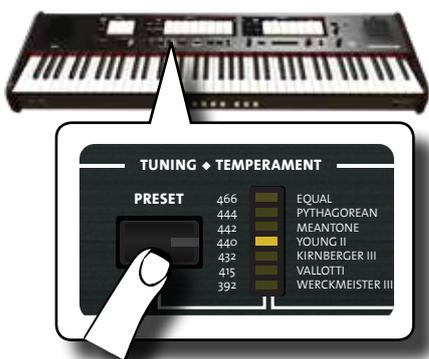
チューニングプリセットを使う

何年もの間、欧州全体で標準的なピッチは存在しませんでした。A音の周波数は国によって異なっていました。例えば、フランスの一部ではA=392Hz、ドイツではA=465Hzというくらいの差がありました。オルガンは、同じ地域や町であっても、しばしばアンサンブル楽器とは異なる調律がされていました。

本機には、最もよく使用されるチューニングプリセットが7種類あります。

各オルガン・レジスターの音量を調整する方法

1. 希望のピッチのインジケータが点灯するまで、[PRESET]ボタンを繰り返し押します。



新しいチューニングが利用可能になりました。
使用可能なプリセットは次のとおりです。

設定	設定
466 Hz	ヴェネチアンピッチ
444 Hz	
442 Hz	
440 Hz	現代のピッチ
432 Hz	オーラピッチ
415 Hz	バロックピッチ
392 Hz	ヴェルサイユピッチ

注記

他の楽器にピッチを合わせる必要がある場合は、[FINE]ノブを使用します。現在のプリセットピッチを中心に±100セントの範囲でピッチを調整できます。

注記

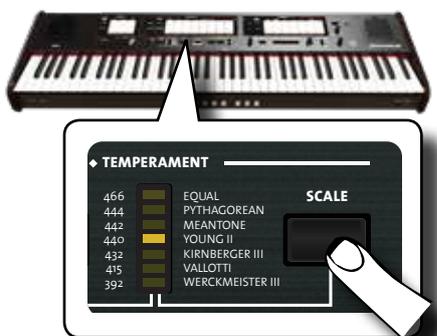
チューニングの設定は保存されません。本機の電源をオフにすると変更内容は失われます。

異なる音律を使う

西洋音楽のために最も使用されるチューニングは、オクターブの任意の2つの半音の間の距離(間隔)が等しい「平均律」と呼ばれるものです。本機はこのチューニングを初期設定で使用します。

しかし、そう遠くない過去には、古典的な西洋音楽には他のチューニングが使われていました。これらのチューニングは、1オクターブ内の半音間の間隔が異なっていることが特徴です。本機では、最もよく使用される7つのチューニング方法の中から1つを選択できます。

1. 希望のチューニングのインジケータが点灯するまで、[SCALE]ボタンを繰り返し押します。



音律スケールが呼び出されます。

使用可能なスケールは次のとおりです。

音律スケール	説明
Equal (初期設定), Pythagorean, Mean-TONE, Young II Kimberger III, Vallotti, Werckmeister III	<p>Equal: この音律はフラット平均律の補正版です。オクターブを引き伸ばすことによる利点は、平均律が完全5度を取ることによる不協和音の補正です。</p> <p>Pythagorean: このシステムは古代ギリシャで発明されました。4度と5度の曖昧さを解決します。3度はやや不完全ですが、メロディーはよりクリアに響きます。</p> <p>Mean-TONE: ミントーン音律はイントネーションに代わるもので、完全にナチュラルな5度と3度の様々な加算と減算によって、スケールの全ての間隔を適切にチューニングしました。</p> <p>Young II: 1800年に王立協会に提案された新しい音律は、ヴァロッティと非常によく似ていますが、ヤングは5度をFからではなくCのシャープ側に回るように調律します。</p> <p>Kimberger III: ミントーンとジャスト音律の改善の結果、この調律システムは、移調に対して比較的耐久性があり、全ての調で演奏することができます。</p> <p>Vallotti: 今日のバロック様式のミュージシャンの多くにとって、このチューニングは基本です。</p> <p>Werckmeister III: ミントーンとピタゴラスの両方の音律を組み合わせることで、どの調でも演奏することができます。</p>

キーノート(ルートノート)の選択

平均律以外の音律を使用する場合は、この手順を使用して曲の主音を指定します。

1. [SCALE]ボタンを押し続けます
スケールインジケータが点滅して、ルートノート編集モードになっていることを知らせます。
2. 指定するルートノートの鍵盤を押します。
3. 編集モードが終了し、ルートノートが選択されます。

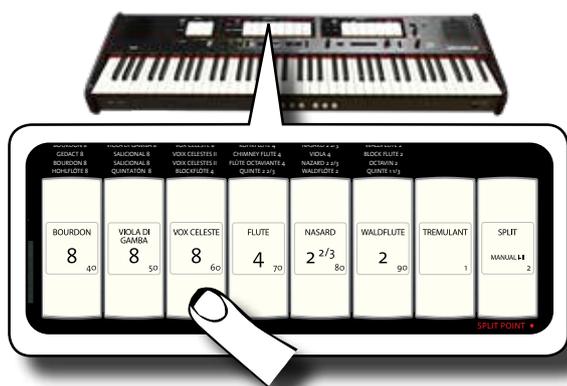
注記

音律やスケールの設定は保存されません。本機の電源をオフにすると変更内容は失われます。

各オルガン・レジスターの音量を調整する方法

オルガンの各レジスター(MANUAL I, MANUAL II, PEDAL/パート)の音量を調節できます。

1. インジケータが点滅するまで、調節したいレジスターのティルト・タブ(MANUAL I, MANUAL II, PEDAL/パート)の1つを押し続けます。



上記の例では、MANUAL Iのレジスターを選びます。
ティルト・タブが点滅し、編集モードになっていることを示します。

2. [TONE / LEVEL]ノブを回して、選択したレジスターの音量を調節します。



ノブを時計回りに回すと音量が上がり、反時計回りに回すと音量が下がります。
[VALUE/REV TYPE] LEDが値を示します。

3. 必要に応じて、他のティルト・タブを押してその音量を調整します。
4. 選択したティルト・タブをもう一度押すと、編集モードが解除されます。

注記

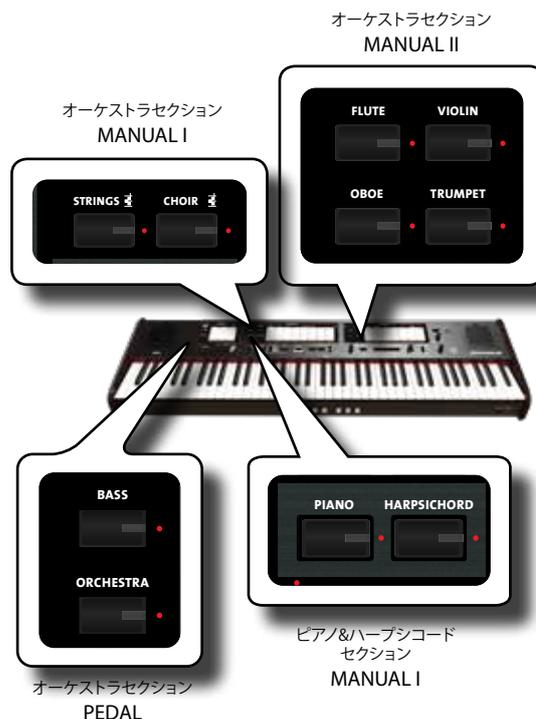
設定を保存するには、「メモリーピストンの操作」(29ページ)を参照してください。

保存しないで本機を電源オフにすると変更内容が失われます。

各セクションの音量を調整する方法

オーケストラセクションの音量 (MANUAL I, MANUAL II, PEDAL) と、MANUAL IIのピアノとハープシコードのセクションの音量を調整することができます。

1. インジケーターが点滅するまで、調整したいセクションのボタンの1つを押し続けます。



編集モードに入りました。

2. [TONE / LEVEL]ノブを回して音量を調節します。



ノブを時計回りに回すと音量が上がり、反時計回りに回すと音量が下がります。

[VALUE/REV TYPE] LEDメーターに値が表示されます。

3. 必要に応じて、他のセクションのボタンを押してボリュームを調整することができます。
4. セクションのボタンをもう一度押すと、編集モードを終了します。

注記

設定を保存するには、「メモリーピストンの操作」(29ページ)を参照してください。

保存しないで本機を電源オフにすると変更内容が失われます。

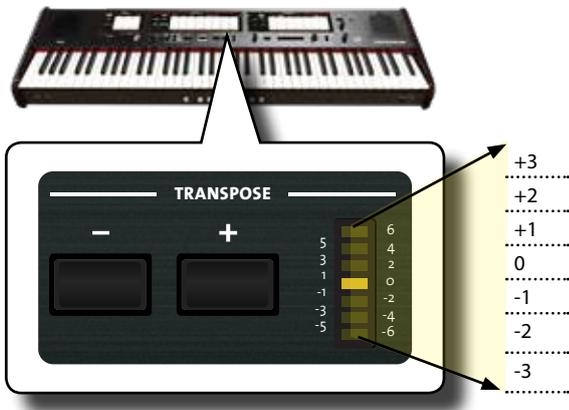
オーケストラセクションのチューニングをオクターブ単位で変更する

オクターブ機能は、選択したパートの音程をオクターブ単位で変更できる便利なパラメーターです (一度に12半音ずつ)。

MANUAL I, MANUAL II, PEDALの各オーケストラセクションとMANUAL Iのピアノとハープシコードのセクションをオクターブごとに個別に調整することができます。

サウンドを改善する(コードエンハンサー)

- 調整したいセクションのボタンの1つをインジケーターが点滅するまで押し続けます。
編集モードに入りました。
[TRANPOSE]のインジケーターは、選んだセクションのオクターブ値が表示されます。
- TRANPOSE [-]と[+]ボタンを使って、鍵盤のオクターブを+3/-3まで上下にシフトさせます。



オクターブ設定
-3 ~ 0 ~ +3

- 必要に応じて、他のセクションのボタンを押してオクターブを調整することができます。
- セクションのボタンをもう一度押しすと、編集モードを終了します。

注記

設定を保存するには、「メモリーピストンの操作」(29ページ)を参照してください。
保存しないで本機を電源オフにすると変更内容が失われます。

サウンドを改善する(コードエンハンサー)

この機能は、MANUALパートで演奏している和音に自動的にハーモニーを追加してサウンドを改善します。

コードエンハンサー機能は、ストリングス (STRINGS) かクワイアー (CHOIR) の音色が選択されていて、[CHORD ENHANCER] ボタンがオンになっている (ボタンのインジケーターが点灯) ときに機能します。

- MANUALパートでストリングスまたはクワイアーの音色を選びます。「MANUALパートでオーケストラ音色を演奏する」(19ページ)を参照してください。
- [CHORD ENHANCER] ボタンを押します。



[CHORD ENHANCER] ボタンのインジケーターが点灯してコードエンハンサー機能がオンになりました。

注記

もし現在選択されている音色がストリングスかクワイアーでない場合は、コードエンハンサーは機能しません。

- 鍵盤で和音を弾きます。
コードエンハンサー機能が、あなたが演奏した和音に音を追加します。
- 注記
コードエンハンサー機能はMANUALパートで、スプリットモードでもレイヤーモードでも機能します。
- [CHORD ENHANCER] ボタンもう一度押ししてコードエンハンサー機能を終了します。

クレッシェンドの設定を変更する

本機には、オプションのエクスペッションペダルを接続するためのCRESCENDO PEDAL端子が装備されています。12ページを参照してください。クレッシェンドの設定を保存または読み込むことができます。

ある種のオルガン音楽では、クレッシェンドペダルが必要な場合があります。クレッシェンドペダルは、前に踏み込むと予め設定された音色の組合せを少しずつ増やしていき、ペダルを戻すと徐々に音色の組合せを減じさせていく機能です。この予め設定されている音色は、非常に静かなピアノシモから始まり、非常に大きなトゥツティまで達します。

必要に応じて、各ステップで有効にするティルト・タブを編集して選択できます。

オルガン様式ごとにクレッシェンドの設定を変更することもできます。市販のUSBメモリーにクレッシェンド設定を保存 (エクスポート) したり、USBメモリーから呼び出す (インポートする) ことができます。

「クレッシェンド設定をインポートする」および「クレッシェンド設定をエクスポートする」(41ページ)を参照してください。

クレッシェンドペダルには、オルガン様式ごとに7つの予め設定されたステップがあります。

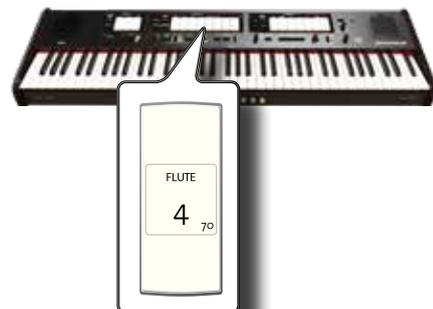
クレッシェンド設定モードに入る

- クレッシェンド設定を変更するためのオルガン様式を選びます。「様々なオルガン様式の選択」(17ページ)を参照してください。
- [FUNCTION/EXIT] ボタンを押したままにします。



[FUNCTION/EXIT] ボタンが点滅して、FUNCTIONモードに入ったことを示します。他の全てのインジケーターは消灯します。

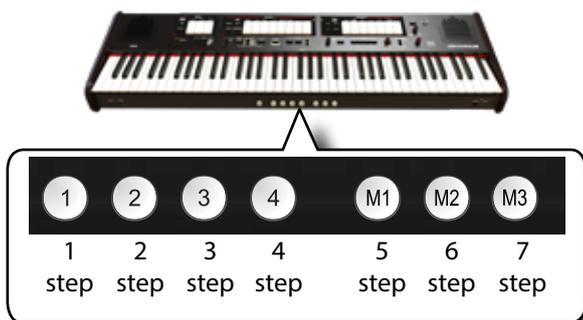
- "70" ティルト・タブの下部分を押しして、クレッシェンド設定機能を選びます。



[1]、[2]、[3]、[4]、[M1]、[M2]、[M3]のインジケーターが点滅を始めます。

クレッシェンドのステップの編集を始める

4. いずれかのピストンを押して、変更するステップを選びます。選択したクレッシェンドのステップで有効なティルト・タブが点灯します。



選んだピストンが点灯し、[CRESCENDO]のインジケータが今設定しているステップを表示します。

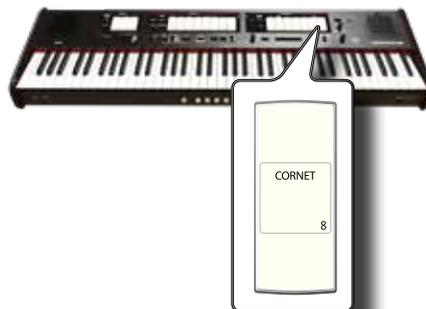
5. このステップで使用するティルト・タブを変更します。
6. 更にクレッシェンドのステップを変更する必要がある場合は、手順4と5を繰り返します。
7. 編集が終了したら、[FUNCTION/EXIT]ボタンを押してこの機能を終了します。

メモ

変更を保存したい場合は、クレッシェンドの設定をUSBメモリーに保存してください。「クレッシェンド設定をエクスポートする」(41ページ)を参照してください。

注記

クレッシェンドの設定は、機器の電源をオフにしている間にグローバル領域に保存されます。



ファクトリー・リセットが実行され、この機器はファンクションモードから抜けます。
本機が工場出荷時の設定に初期化されました。

工場出荷時の設定の復元(ファクトリー・リセット)

次の機能を使って、本機を工場出荷時の設定に戻すことができます。

警告

全てのデータが削除されます。ご自分のメモリーの内容とクレッシェンド設定をUSBメモリーに保存してください。「レジストレーションセットをUSBメモリーにエクスポートする」(29ページ)および「クレッシェンド設定をエクスポートする」(41ページ)を参照してください。

1. [FUNCTION/EXIT]ボタンを押したままにします。



[FUNCTION/EXIT]ボタンが点滅し、ファンクションモードに入っていることを示します。他の全てのインジケータは消灯します。

2. ティルト・タブ「8」の下の部分を押し、ファクトリー・リセット機能を選びます。

10 メモリーピストンの操作

本機ではメモリーピストンを使用して、フロントパネル上のほぼ全ての設定（レジストレーション）を保存できます。設定は12個のメモリー（4個のメモリー×3個のバンク）に保存することができます。

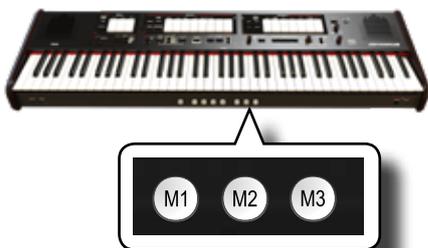
追加のレジストレーションは、外部USBメモリーに直接保存またはロードすることができます。

メモ

1個のレジストレーションをMIDIで呼び出すことができます。
「MIDI経由でメモリーを呼び出す」(34ページ)をご覧ください。

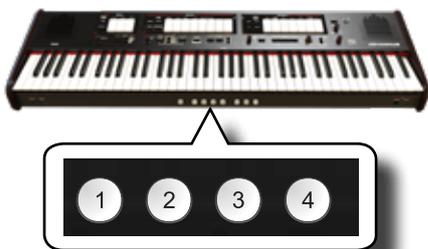
設定をメモリーに保存する

1. ティルト・タブやボタン、その他の機能を設定して、保存したいサウンドの組み合わせを作ります。
2. [M1、M2またはM3]ピストンを押して、保存するメモリーバンクを選びます。



選択したピストンが点灯します。

3. 設定を保存したいメモリーに対応する[1, 2, 3, 4]ピストンを押し続けます。



選択したメモリーピストンが点滅し、次に点灯してレジストレーションが保存されたことを示します。

注記

このメモリーに以前に保存されていた設定は、新しいレジストレーションによって上書きされます。

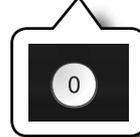
設定を呼び出す

1. 必要に応じて[M1、M2またはM3]ピストンを押して、必要な設定を含むバンクを選びます。
2. [1]~[4]のピストンを押して、対応するメモリーのレジストレーションをロードします。

キャンセル機能

この機能は、全てのティルト・タブとオーケストラ音色をすばやくオフにするのに便利です。

1. [0]ピストンを押します。



全てのティルト・タブとオーケストラ音色ボタンがオフになります。

レジストレーションセットをUSBメモリーにエクスポートする

この手順では、ファイル内の12個のレジストレーションをUSBメモリーにエクスポートできます。この機能は作業のバックアップとして役立ちます。

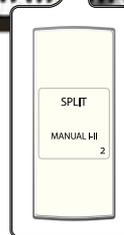
最大12個のレジストレーションセット（12ファイル）をUSBメモリーに保存できます。

1. データを保存するUSBメモリーを挿入します。「USBメモリー（市販品）を接続する」(14ページ)をご覧ください。
2. [FUNCTION/EXIT]ボタンを長押しします。



[FUNCTION/EXIT]ボタンが点滅し、ファンクションモードになっていることを示します。他の全てのインジケーターは消灯します。

3. "2" ティルト・タブの下部を押して、メモリーエクスポート機能を選びます。



ここで、保存したいUSBメモリーの「場所」（ファイル）を選択する必要があります。

最大12のレジストレーションセット（ファイル）をUSBメモリーに保存できます。各場所は[M1]~[M3]と[1]~[4]メモリーピストンで選択できます。

例えば、場所1.1にセットを保存する場合は、[M1]と[1]メモリーピストンを選びます。場所3.2に保存する場合は、[M3]と[2]メモリーピストンを押します。使える12個の場所は[1~3],[1~4]です。

注記

レジストレーションセットをUSBメモリーに保存すると、その場所にすでに保存されているレジストレーションが上書きされます。

4. [M1、M2またはM3]ピストンを選択して、保存する場所の1桁目の数字を選びます。
[1]、[2]、[3]、[4]メモリーピストンは、使用可能なフリーの場所を示します。

状態	説明
点滅	空き場所(フリー)
点灯	データあり

5. [1]～[4]のピストンを押して、2桁目の数字を選びます。
レジストレーションセットがUSBメモリーに保存されました。

注記

レジストレーションセットをUSBメモリーに保存すると、その場所にすでに保存されているレジストレーションが上書きされます。

セットを選びます。
レジストレーションセットが内部メモリーにインポートされました。

レジストレーションセットをUSBメモリーからインポートする

以下の手順でレジストレーションセットをUSBメモリーからインポートします。

1. レジストレーションセットが保存されているUSBメモリーを挿入します。「USBメモリー(市販品)を接続する」(14ページ)をご覧ください。
2. [FUNCTION/EXIT]ボタンを押したままにします。



[FUNCTION/EXIT]ボタンが点滅し、ファンクションモードになっていることを示します。他の全てのインジケーターは消灯します。

3. "1" ティルト・タブの下部を押して、メモリーインポート機能を選びます。



[1]、[2]、[3]、[4]メモリーピストンが点滅します。

4. [M1、M2またはM3]ピストンを選択して、インポートしたいレジストレーションセットの1桁目の数字を選びます。
[1]、[2]、[3]、[4]メモリーピストンは、インポートするデータがある場所を示します。

状態	説明
点滅	データあり
消灯	空き

5. [1]～[4]のピストンを押して、インポートしたいレジストレーション

11 ソングプレイヤーで練習する

本機は、USBメモリーポートに接続したUSBメモリーからmp3およびWAV形式のオーディオファイルを直接再生できます。

バックリグソングに沿って練習することができます。

本機は以下のファイルタイプを再生できます。

ファイルタイプ	拡張子
オーディオファイル	.mp3
	.wav
	.aiff or .aif

曲を再生する前に

本機でオーディオ(mp3またはWAV)を再生するには、まずファイル名を適切に変更する必要があります。曲をファイル名の頭に付けた数字で選択するためです。

次に曲をUSBメモリーにコピーする必要があります。

これらの操作には、パーソナルコンピューターが必要です。

オーディオファイルの命名規則

1. パーソナルコンピューターを使用して、曲名に数字を追加します。例えばファイル名が "OliebeSeele.wav" と "GottDurchDeineGute.mp3" の場合は、次のように名前を変更してください。

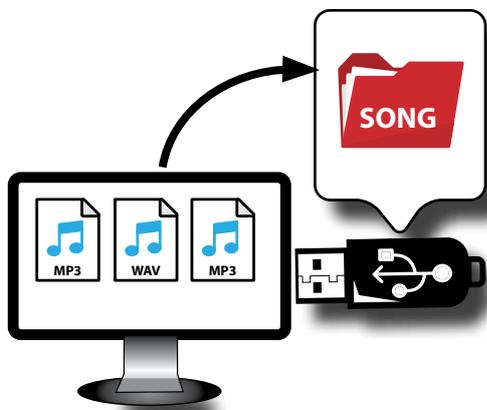
01_OliebeSeele.wav

02_GottDurchDeineGute.mp3

最初の数字は[01_]から[99_]まで使用できます。

オーディオファイルをUSBメモリーにコピーする

2. USBメモリーをコンピューターのUSB端子に挿入します。
3. USBメモリーのルートディレクトリーに "SONG" フォルダーを作成します。
4. 名前を変更した全てのオーディオファイルをUSBメモリーの "SONG" フォルダーにコピーします。



5. USBメモリーを安全に取り外します。

注記

本機はUSBメモリーの "SONG" フォルダーにあるファイルのみを再生することができます。

曲の選択と再生

1. 曲が入ったUSBメモリーを挿入します。「USBメモリー (市販品) を接続する」(14ページ)と、「曲を再生する前に」(31ページ)を参照してください。

曲を選択する

1. [SONG]ボタンを押してソングモードに入ります。インジケーターが点灯します。

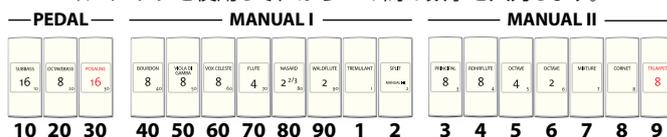


全てのティルト・タブが一時的に消灯します。

注記

SONGモードは一時的に有効になります。数秒間どのティルト・タブも押さないと、このモードを抜けます。必要に応じて[SONG]ボタンをもう一度押してください(手順1)。

2. 曲を選択するには、PEDAL、MANUAL IおよびMANUAL IIのティルト・タブを使用して、1から99の間の数字を入力します。

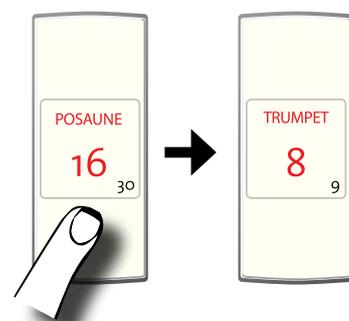


ティルト・タブの下の数字を参照してください。

"1"を入力するには、[TREMULANT] (数字 "1")を押すだけです。



"39"を入力するには、[POSAUNE 16] (数字 "16")を押す、続いて[TROMPETE 8] (数字 "8")を押します。



注記

曲番号99は、あなたが最後に録音した曲が呼び出されます。「演奏を録音する」(33ページ)を参照してください。

曲を再生する

3. [▶/||]ボタンを押します。
[▶/||]ボタンのインジケーターが点灯し、曲の再生が始まります。
4. [▶/||]ボタンをもう一度押して、曲の再生を一時停止します。
[▶/||]ボタンが消灯します。
5. 曲の先頭に戻るには、[◀]ボタンを押します。
6. [▶/||]をもう一度押すと、再生を再開します。

最後に録音した曲を選ぶ

1. 最後に録音した曲を選ぶには、「曲の選択と再生」(31ページ)の手順にしたがって、曲番号「99」を呼び出してください。

曲の音量調整

本機では簡単に曲の音量調整ができます。

1. [SONG]ボタンを押してソングモードに入ります。インジケーターが点灯します。
2. [TONE / LEVEL]ノブを回して、曲の再生音量を調節します。



ノブを時計回りに回すと音量が上がり、反時計回りに回すと音量が下がります。

[VALUE/REV TYPE] LEDメーターに値が表示されます。

12 演奏を録音する

本機では、演奏を録音してUSBストレージデバイスに保存することができます。演奏を録音して再生することは、効果的な練習の助けになります。

オーディオデータとして録音する

あなたの演奏はオーディオデータとして録音されます。録音した曲は、お使いのコンピュータ、スマートフォン、および任意のオーディオプレーヤーで使用できます。

注記

この録音方法を使用するには、USBメモリー（別売）をUSBメモリーポートに接続する必要があります（14ページ）。

音楽をオーディオデータ (WAVE) として録音する

この便利な機能により、プロフェッショナル品質のステレオ録音が可能になります。コンピュータを使ってポータブルミュージックプレーヤーで直接再生することができます。

録音は外部USBメモリー（市販品）に保存されます。

さらに、本機ではAUDIO IN端子に接続されている機器からの音声も録音することができます。AUDIO IN端子に接続された外部プレーヤーでバックグランドオーディオトラックを再生しながら練習をして、そして演奏を録音することができます。

注記

- ・演奏を録音するには、市販のUSBメモリーが必要です。

オーディオレコーダーのフォーマット仕様

オーディオフォーマット	仕様
WAV	48 kHz, 32ビット, ステレオ

録音を開始する前に

1. オーディオデータを保存するUSBメモリーを接続します。「USBメモリー（市販品）を接続する」（14ページ）を参照してください。
2. 録音の準備をします：演奏に使用する音色とキーボードモードを選択します。

録音の開始/停止

3. [●] (録音) ボタンを押して録音を開始します。
[●] ボタンのインジケーターが点灯し、本機が鍵盤での全ての演奏の録音を開始します。
4. 曲の終わりに[●] (録音) ボタンを押して録音を停止します。
録音が停止し、インジケーターが消灯します。
オーディオファイルは、USBメモリーの "Recording" フォルダーに保存されます。

注記

曲の録音中にUSBメモリーを抜かないでください。

録音ファイルについて

オーディオファイルは、USBメモリーの "Recording" フォルダーに保存されます。"Recording" フォルダーが存在しない場合は最初の録音の時に自動的に作成されます。

曲は、rec_0001.wav、rec_0002.wavのように順番に番号が振られて保存されます。最後の録音だけが曲番号「99」で再生することができます。

録音を聴く

5. [▶/||] ボタンを押して、曲を聴きます。
再度録音したい場合は、手順3から繰り返します。

注記

USBメモリーを物理的に抜き取る前に、必ずUSBメモリーを解除してください。USBメモリーを取り外す前に、「USB REMOVE」機能を使用してください。「USBメモリーを安全に取り外す」（14ページ）をご覧ください。

最後の録音を呼び出す方法

「最後に録音した曲を選ぶ」（32ページ）を参照してください。

既存のオーディオソングに演奏を録音する方法 (オーバーダブ)

これは、オーディオ録音に使われる技術です。既存の録音されたオーディオソングを聴きながら新たに演奏します。すべてが新しい曲に録音されます。

1. オーディオデータを保存するUSBメモリーを接続します。「USBメモリー（市販品）を接続する」（14ページ）を参照してください。
2. 録音の準備をします。
3. 既存のオーディオソングをロードします。「曲を選択する」を参照して下さい（31ページ）。
4. [●] (録音) ボタンを押して録音を開始します。
5. [▶/||] ボタンを押して、バックグラウンドのオーディオソングの再生を開始します
6. オーディオソングを聴きながら演奏をします。
7. 曲の最後に[●] (録音) ボタンを押して録音を停止します。
録音が停止して[●]インジケーターが消灯します。
8. [▶/||] ボタンを押して曲を聴きます。

13 MIDI機器との接続

MIDIは "Musical Instrument Digital Interface" の略です。本機の鍵盤で演奏すると、その演奏データをMIDI OUT端子 (またはUSB COMPUTERポート) から送信します。

MIDI機器の接続方法は、「本機をMIDI機器に接続する」(14ページ)をご覧ください。

MIDIデータの送受信

キーボードの各パートとセクションにはそれぞれMIDIチャンネルが割り当てられています。

キーボードのパートの送受信チャンネルは次のように設定されています。

キーボードパート	MIDIチャンネル
Manual I	1
Manual II	2
Pedal	3
Orchestra Manual I	4
Orchestra Manual II	5
Orchestra Pedal	6
Piano/Harpsichord	7

MIDI経由でメモリーを呼び出す

この機能は、本機のMIDI IN端子またはUSB COMPUTERポートに接続されたMIDI機器からメモリーを呼び出すのに便利です。

メモ

メモリーピストンを使用してメモリーを呼び出すには、「メモリーピストンの操作」(29ページ)を参照してください。

1つのレジストレーションを選択する場合は、MIDIチャンネル15で下記のメッセージを送信します。

MIDIチャンネル: 15		
MIDI メッセージ	値	メモリーピストン
CC 32	0,1,2	(M1) (M2) (M3)
PG	1,2,3,4	(1) (2) (3) (4)

例えば、必要なレジストレーションが入っているバンクM2を選択するには、CC 32で値1を送信します。

レジストレーション3を選択するには、PGで値3を送信します。

重要なヒント

レジストレーションを呼び出すということは、そのレジストレーションに記憶されている音色を呼び出すということです。このようにしてMIDI外部シーケンサーを使ってMIDI経由で音色を変更することができます。

14 オーディオバックিংトラックで演奏する

X MUREアプリケーションと本機を使って、オーディオパターンをコントロールしながら、お気に入りのメロディーを演奏することができます。



X MUREはDEXIBELLのソフトウェア製品です

X MUREとは

- X MUREは、iPhoneまたはiPadで動作するアプリケーションです。
- 「Harmony Poly Fragmentor」(リアルタイムで「オーディオトラック」を変更できる世界初のアルゴリズム)を使用して、「X MURE」は、iPad / iPhoneの画面から直接、またはUSB経由で接続された楽器から音楽を演奏できます。
- 「X MURE」はサウンドジェネレーターや仮想楽器や「Standard MIDI file」を使いません。実際の楽器で録音されたオーディオトラックだけを使うので、現実をシミュレートするのではなく、現実そのものです。

X MUREで出来ること

- 本機で演奏するコード進行によって、X MUREのオーディオパターンを制御します。
- あなたの好きな音楽トラックを無数の音楽ジャンルを使用して再アレンジしたり、完全に新しい曲を作り出します。

X MUREを使うために必要なもの

- JOHANNUS ONEデジタルオルガン
- Apple iPadカメラ接続キット (Apple Inc.製のカメラコネクター)
- USBケーブル (タイプA・オス — タイプB・オス:市販品)
- オーディオケーブル (3.5mmプラグ)
- App StoreのX MUREアプリケーション

1. [VOLUME]ノブを左に回して音量を最小にします。
2. 左側の前面下部パネルにある本機のINPUTジャックをモバイル機器の出力に接続します。「デジタルプレーヤー機器の接続」(13ページ)を参照してください。

X MUREアプリケーションで演奏する

1. 本機とあなたのiPadをオンにします。
2. iPadのX MUREアイコンをタップしてアプリを開きます。
3. INSTRUMENTアイコンをタッチして、本機で最大のパフォーマンスを得られるようにします。
4. キーボードでノートを演奏して、X MUREにどのパートでコントロールしているかを知らせます。
5. X MUREで、再生するオーディオパターンを選択します。
6. X MUREアプリケーションの再生アイコンをタッチします。パターンが再生を開始します。
7. キーボードで和音を演奏します。音声のパターンは和音の進行に従います。
8. X MUREで "A"、"B"、"C"、"D" アイコンボタンをタッチして、別のシーンを選択します。
9. X MUREで "1"、"2"、"3"、"4" アイコンボタンをタッチして、別のドラムパターンを選択します。

モバイル機器の接続

1. USB iPadカメラコネクターとUSBケーブルを使用して、iPadと本機を接続します。



15 高度な機能

本機の[FUNCTION/EXIT]ボタンで、使用可能なパラメーターと機能にアクセスします。

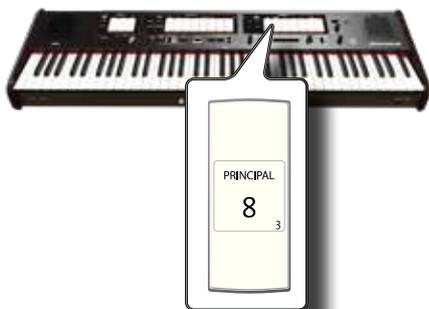
一般的な手順

1. [FUNCTION/EXIT]ボタンを長押しします。



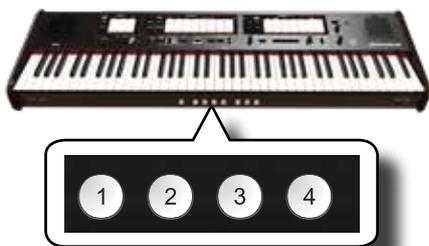
[FUNCTION/EXIT]ボタンが点滅し、機能モードになっていることを示します。他のインジケーターは全て消灯します。

2. 呼び出したい機能が割り当てられているティルト・タブの下部を押します。



上記の例では、エクスプレッションペダル設定を選択しました。

3. 呼び出された機能に応じて、[1, 2, 3, 4]ピストンを押してパラメーターを設定します。



次のパラメーターと機能を使用できます。

機能

メモリー機能をインポートする	36
メモリー機能をエクスポートする	36
エクスプレッションペダルの設定	37
MANUAL II/ORCHESTRA	37
全パート	37
ORCHESTRA (MANUAL II)	37
ORCHESTRA (MANUAL I と PEDAL)	37
ダンパーペダルの設定	37
PIANO	37
PIANO, ORCHESTRA (MANUAL I)	37
PIANO, ORCHESTRA (PEDAL)	37
PIANO, ORCHESTRA (PEDAL と MANUAL I)	37

スピーカーの設定	37
オート	37
オン	37
オフ	37
オート・オフ設定	37
60分	37
120分	37
240分	37
ローカル・オン/オフ設定	37
オフ	37
オン	37
ファクトリー・リセット	38
MIDIペダル鍵盤	38
有効	38
無効	38
オルガンサウンドセットをインポートする (User 1/2)	38
オルガンサウンドセットを削除する (User 1/2)	38
USBの解除	38
鍵盤タッチレスポンス	39
ライト・プラス	39
ライト	39
ノーマル	39
ヘビー	39
クレッシェンドペダル	39
クレッシェンド	39
ダンパー	39
クレッシェンド設定モード	39
クレッシェンド設定をインポートする	39
クレッシェンド設定をエクスポートする	39

メモリー機能をインポートする

[FUNCTION/EXIT]ボタン→1



この機能を使用すると、USBメモリーからレジストレーションセットをインポートできます。詳細は、「レジストレーションセットをUSBメモリーからインポートする」(30ページ)を参照してください。

メモリー機能をエクスポートする

[FUNCTION/EXIT]ボタン→2



この機能を使用すると、レジストレーションセットをUSBメモリーにエクスポートできます。詳細は、「レジストレーションセットをUSBメモリーにエクスポートする」(29ページ)を参照してください。

エクスプレッションペダルの設定

[FUNCTION/EXIT]ボタン→3



オプションのエクスプレッションペダルを本機のEXPRESSION PEDAL端子に接続して、オルガンやその他の音色の音量を調節します。コントロールできるパートは以下の通りです。

ピストン	設定	説明
①	MANUAL II/ ORCHESTRA	エクスプレッションペダルはMANUAL IIと、そのオーケストラセクションに作用します。
②	全パート	エクスプレッションペダルは全てのパートとオーケストラセクションに作用します。
③	ORCHESTRA (MANUAL II)	エクスプレッションペダルはMANUAL IIパートのオーケストラセクションに作用します。
④	ORCHESTRA (MANUAL IとPEDAL)	エクスプレッションペダルはMANUAL IとPEDALパートのオーケストラセクションに作用します。(初期設定)

ダンパーペダルの設定

[FUNCTION/EXIT]ボタン→4



オプションのダンパーペダルを本機のDAMPER PEDAL端子に接続することができます。アコースティックピアノと同じようにPEDAL、MANUAL IおよびIIパートの音を伸ばすことができます。

注記

CRESCENDO端子に可変式フットペダルを接続してダンパーペダルとして使うことができます。「クレッシェンドペダル」(41ページ)を参照してください。

ピストン	設定	説明
①	PIANO	ダンパーペダルは、アコースティックピアノのようにピアノセクションに作用します。(初期設定)
②	PIANO, ORCHESTRA (MANUAL I)	ダンパーペダルは、ピアノとMANUAL Iパートのオーケストラセクションに作用します。
③	PIANO, ORCHESTRA (PEDAL)	ダンパーペダルは、ピアノとPEDALパートのオーケストラセクションに作用します。
④	PIANO, ORCHESTRA (PEDALとMANUAL I)	ダンパーペダルは、ピアノとPEDAL、MANUAL Iパートのオーケストラセクションに作用します。

スピーカー設定

[FUNCTION/EXIT]ボタン→5



ピストン	設定	説明
①	オート	本機の内蔵スピーカーを使用したい場合は、このオプションを選んでください。ヘッドフォンを接続すると内蔵スピーカーからの音は消えます。
②	オン	ヘッドフォン使用時にも内蔵スピーカーから音を出したい場合はこのオプションを選んでください。

ピストン	設定	説明
③	オフ	ライブパフォーマンスに本機を使用して、それを外部のアンプシステムに接続している場合は、本機の内蔵スピーカーをオフにすると便利です。

オート・オフ設定

[FUNCTION/EXIT]ボタン→6



このパラメーターを使用すると、本機を使用していない時に選択した時間が経過すると本機を自動的にオフにすることができます。

この機能を使用しない場合は、「オフ」を選択してください。

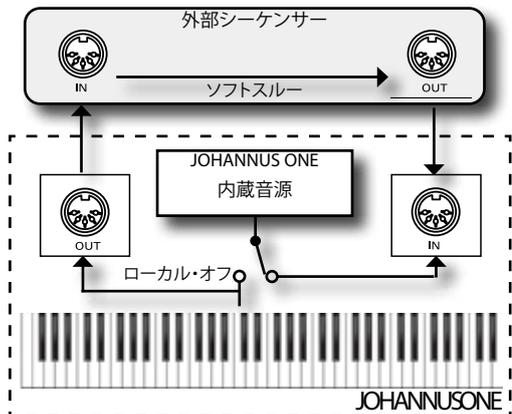
ピストン	設定
①	オフ
②	60分
③	120分
④	240分

ローカル・オン/オフの設定

[FUNCTION/EXIT]ボタン→7



このパラメーターは、外部MIDIシーケンサーを本機に接続するときに便利です。



ピストン	設定	説明
①	オフ	本機の内蔵音源との接続を切るには「オフ」を選択してください。音源は、本機 MIDI INポートに接続されたシーケンサーや他の楽器からのMIDIデータを受信します。
②	オン	鍵盤が内蔵音源に接続されています。(初期設定)

ファクトリー・リセット

[FUNCTION/EXIT]ボタン→8



この機能を使用すると、本機の工場出荷時の設定を呼び出すことができます。「工場出荷時の設定の復元(ファクトリー・リセット)」(28ページ)を参照してください

MIDIペダル鍵盤

[FUNCTION/EXIT]ボタン→9



ピストン	設定	説明
①	有効	MIDIペダル鍵盤を本機のリアパネルのMIDI IN端子に接続する場合は、「有効」を選択します。 PEDAL/パートはペダル鍵盤によって演奏されます。 「ペダル鍵盤でPEDAL/パートを演奏する」(18ページ)を参照してください。(初期設定)
②	無効	別のタイプのMIDI機器を本機のリアパネルのMIDI IN端子に接続する場合は「無効」を選択します。

オルガンサウンドセットをインポートする (USER 1, 2)

[FUNCTION/EXIT]ボタン→10



ORGAN [USER 1]と[USER 2]のセットは、オプションの新しいオルガンサウンドセットを本機にインストールした後にのみ使用できます。

サウンドセット

本機では、JOHANNUS ONE Official Sounds (.DXS拡張子) から新しいオルガンサウンドセットをインストールすることができます。

これらのサウンドは、次のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.johannus.com>

本機の内部メモリーにユーザーサウンドセットをインポートして、それらを演奏で使用することができます。インポートするには、USBメモリーとパーソナルコンピューターが必要です。

USBメモリーにオルガンサウンドセットをロードする

1. コンピューターを使用して、JOHANNUSのウェブサイトからサウンドセット(.DXS)をダウンロードします。
2. USBメモリーをコンピューターのUSBポートに挿入します。
3. USBメモリーのルートに「/SOUND/ORGAN/USER1」と「/SOUND/ORGAN/USER2」の2つのフォルダーを作成します。
4. オルガンサウンドセット(.DXS)を「USER 1」にロードしたい場合はUSBメモリーの「/SOUND/ORGAN/USER1」フォルダーに、「USER 2」にしたい場合は「/SOUND/ORGAN/USER2」フォルダーにコピーします。
5. USBメモリーを安全に取り外します。

オルガンサウンドセットのインポート

6. オルガンサウンドセットが入っているUSBメモリーを挿入します。「USBメモリー(市販品)を接続する」(14ページ)をご覧ください。
7. [10]ティルト・タブを選択して機能モードに入ります。「一般的な手順」を参照してください(38ページ)。
[10]ティルト・タブのインジケーターが点灯します。
8. 適切なピストンを押します。
[1]、[2]メモリーピストンは、可能な選択肢を示します。

状態	説明
点滅	空き(フリー)
点灯	サウンドセットが入っています。

ピストン	説明
①	"SOUND/ORGAN/USER1" フォルダーにロードした場合は [1]を選択します。
②	"SOUND/ORGAN/USER2" フォルダーにロードした場合は [2]を選択します。

[10]ティルト・タブのインジケーターが点滅し、サウンドセットがインポートされます。

インポートされたオルガンサウンドセットを選択するには、「様々なオルガン様式の選択」(17ページ)を参照してください。

注記

全てのティルト・タブが点滅しているときは、インポート中にエラーが起きたことを示しています。これが起きた場合はUSBメモリー内のサウンドセットファイルとパスを確認してください。

オルガンサウンドセットを削除する (USER 1, 2)

[FUNCTION/EXIT]ボタン→20



[1]、[2]メモリーピストンは、可能な選択肢を示します。

状態	説明
点滅	サウンドセットが入っています。
点灯	空き(フリー)

ピストン	説明
①	USER 1のオルガンサウンドセットを削除するには、[1]を選択します。
②	USER 2のオルガンサウンドセットを削除するには、[2]を選択します。

USBの解除

[FUNCTION/EXIT]ボタン→30



USBメモリーを抜く前に、この機能を使って安全に解除してください。「USBメモリーを安全に取り外す」(14ページ)を参照してください。

鍵盤タッチレスポンス

[FUNCTION/EXIT]ボタン→40



鍵盤の反応が好みに合わない場合は調整することができます。4つのタッチレスポンスから選択できます。このパラメーターは、ピアノとオーケストラ音色のみに有効です。

ピストン	設定	説明
①	ライト・プラス	最も軽い鍵盤タッチです。
②	ライト	より少ない力でフォルティシモを得ることができます。
③	ノーマル	中間の感度です。鍵盤を強く強さに応じて音量が変わりますが、ヘビーよりは楽に最大音量を得ることができます。
④	ヘビー	最大の表現力を求める場合はこの設定を選択してください。僅かな打鍵力の違いも音に反映されます。但し最大音量を得るには力強く鍵盤を叩く必要があります。

クレッシェンドペダル

[FUNCTION/EXIT]ボタン→60



ピストン	設定	説明
①	クレッシェンド	[CRESCENDO]端子に接続したエクスプレッションペダルをクレッシェンドペダルとして使用する場合は、この設定を選択します。(初期設定)
②	ダンパー	[CRESCENDO]端子に接続した可変式フットペダルをダンパーペダルとして使用する場合は、この設定を選択します。ピアノ音色を演奏するときにお勧めします。

クレッシェンド設定モード

[FUNCTION/EXIT]ボタン→70



クレッシェンドペダルは、前に踏み込むと予め設定された音色の組合せを少しずつ増やしていき、ペダルを戻すと徐々に音色の組合せを減じさせていく機能です。この予め設定されている音色は、非常に静かなピアノシモから始まり、非常に大きなトゥッティまで達します。

必要に応じて、各ステップで有効にするティルト・タブを編集して選択できます。「クレッシェンドの設定を変更する」(27ページ)を参照してください。

クレッシェンド設定をインポートする

[FUNCTION/EXIT]ボタン→80



この手順では、以前にUSBメモリーに保存したクレッシェンド設定を読み込むことができます。この機能は、作業のバックアップとして役立ちます。

1. USBメモリーを挿入します。「USBメモリー (市販品) を接続する」(14ページ)を参照してください。
2. [80]ティルト・タブを押して機能モードに入ります。「一般的な手順」

を参照してください(38ページ)。

クレッシェンド設定が内部メモリーにインポートされました。

注記

USBメモリーにクレッシェンドファイルがない場合は、全てのティルト・タブが点滅してエラーを示します。

クレッシェンド設定をエクスポートする

[FUNCTION/EXIT]ボタン→90



この手順では、クレッシェンド設定をUSBメモリーに書き出すことができます。この機能は、作業のバックアップとして役立ちます。

1. USBメモリーを挿入します。「USBメモリー (市販品) を接続する」(14ページ)を参照してください。
2. [90]ティルト・タブを押して機能モードに入ります。「一般的な手順」を参照してください(38ページ)。
クレッシェンドの設定は、USBメモリーのルートディレクトリーの "crescendo.csv" という名前のファイルに保存されました。

注記

クレッシェンド設定を保存すると、既にUSBメモリーに保存されているクレッシェンド設定を上書きします。

16 トラブルシューティング

症状	対策	ページ
電源が自動的にオフになります。	これは正常で、オートパワーオフ機能が原因です。必要に応じて、オートパワーオフ機能のパラメーターを設定します。自動的に電源を切る必要がない場合は、オート・オフ設定をオフにしてください。	37
機器がオンになりません。	ACアダプター/電源コードがコンセントと本機に正しく接続されていますか？	12
	電源を切った直後にもう一度電源を入れましたか？ もう一度電源を入れる前に、少なくとも5秒の間隔を空けてください。	-
本機から音が出ません。	電源を切っていませんか？	15
	[VOLUME]ノブが下がっていませんか？右に回してください。 音色(オルガンまたはオーケストラ)を選択しましたか？	- 17-21
アンプに接続したときに、音量レベルが低すぎます。	抵抗入りの接続ケーブルを使用していませんか？ 抵抗が入っていない接続ケーブルを使用してください。	-
本機のINPUT端子に接続されている機器からのボリュームが不十分です。	抵抗入りの接続ケーブルを使用していませんか？抵抗が入っていない接続ケーブルを使用してください。	-
	[AUDIO IN]のノブが下がっていませんか？右に回してください。	13
鍵盤の音量が曲の再生音量よりも小さいです。	鍵盤の音量が低く設定されています。ソングコントロールメニューを使用して鍵盤の音量が上がるように音量バランスを調整してください。	32
楽器のピッチが正しくありません。	「チューニング」や「音律」の設定は適切ですか？パラメーターを確認してください。	24
	楽器をトランスポートしませんでしたか？	24
外部アンプから「バズ音」が聞こえます。	本機と一緒に使用されている外部アンプや他の機器が、本機とは別のコンセントに接続されていませんか？ アンプや他の機器を本機と同じコンセントに接続してください。	-
	このノイズは、楽器の近くにある携帯電話によって引き起こされる干渉によるものである可能性があります。 携帯電話の電源を切るか、携帯電話を楽器から遠ざけて使用してください。	-
USBメモリーから読み書きできません。	USBメモリーのフォーマットを確認してください。本機は、FATとしてフォーマットされたUSBメモリーを使用できます。他の方法でUSBメモリーをフォーマットした場合は、MS-DOS FATとして再フォーマットしてください。	-
USBメモリーに保存できません。	USBメモリーが書き込み保護されていませんか？	-
	USBメモリーに十分な空き容量がありますか？	-
オーディオ録音が開始しない、または予期せず停止します。	USBメモリーに十分な空き容量がありますか？	-
曲が再生できません。	曲のファイルタイプが、本機が再生できるファイルタイプではありません。	31
	曲データが壊れている可能性があります。	-

17 仕様

項目		JOHANNUS ONE
鍵盤		76鍵(ダイナミック)
音源		T2L: サンプリングとモデリング技術
モデリング		演奏者のアーティキュレーションに反応(オーケストラ音色)
サンプリング		XXLのウェーブ・サイズ、ピアノの低音は15秒のホロフォニック録音
波形フォーマット		24ビットリニア 48kHz(内部処理と32ビットフロートのDSP)
デジタルアナログ変換(DAC)		24ビットリニア 48kHz、ダイナミックレンジ、S/N:106dB
最大同時発音数		320オシレーターで無制限
オルガン様式		アメリカン、イングリッシュ、フレンチ、ジャーマン、初期設定、USER 1*、USER 2* *ファイル拡張子.DXSでダウンロード可能
PEDAL ストップ		3
MANUAL I ストップ		6
MANUAL II ストップ		7
オーケストラ音色		34
メモリービストン		鍵盤下の4 x 3バンク(データはUSBメモリーに保存またはロード可能)
鍵盤パート		3パート(MANUAL I、MANUAL II、PEDAL)
タッチレスボンス		4種類+固定
リバーブ		7種類
トレミュラント		3種類
マスターイコライザー		トーンコントロール
マスターチューニング		7つのヒストリカルプリセット+微調整可能
トランスポーズ		+6、-6半音
コードエンハンサー		○
音律		7種類
オーディオプレーヤー		.wav、.aiff、.mp3、全ての形式、周波数およびビットレートにて
オーディオレコーダー		.wav(48kHz、32ビットフロート)でUSBメモリーに記録
ファインチューニング		415.4Hz~466.1Hz(0.1Hz単位で調整可能)+2プリセット(440Hz、442Hz)
リズムパターン		i-Phoneとi-Pad用 X MURE APP(無料)、マルチトラックオーディオパターン
パワーポート		USB LEDランプ用
端子	DC IN	付属のACアダプター用
	AUDIO IN	ステレオミニタイプ
	OUTPUT (L/MONO, R)	1/4インチフォンタイプx 2
	HEADPHONES	ステレオミニタイプx 1 ステレオ1/4インチフォンタイプx 1
	USB COMPUTER	タイプB
	USB MEMORY	タイプA
	EXPRESSION	割り当て可能
	DAMPER	割り当て可能
	CRESCENDO	割り当て可能
スピーカー		フルレンジ 8.9 cm x 2
定格出力		35W x 2 最大@THD + N <0.1%
音圧レベル		最大108.1 dB
アンプ部DSP	デジタルベースエンハンサー	○
	ダイナミックEQ	○
	3バンドコンプレッサー	○
電源		24V DC 2.5A、付属のACアダプター
消費電力		スタンバイ:0.2W以下 パワーオン:10 W 平均:14W 最大:30W スタンバイ時でE _r PLレベル6(エコデザイン)
寸法		1116(幅) x 335(奥行) x 130(高さ) mm
重量		14 kg (ACアダプターを除く)

項目	JOHANNUS ONE
付属アクセサリ	譜面台 ACアダプター USB LEDランプ
オプション(別売)	販売店にお問い合わせください

注記

製品の改良ために、仕様および説明は予告なしに変更されることがあります。

JOHANNUS 総輸入元
株式会社 河合楽器製作所

本社 古典楽器担当
〒430-8665 浜松市中央区寺島町 200
Tel:053-457-1266 Fax:053-457-1303

東京オフィス
〒140-0002 品川区東品川 4-10-27
Tel:03-6718-4169 Fax:03-6712-8125